

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月27日

【事業年度】 第19期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社ミクシィ

【英訳名】 mixi, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木村 弘毅

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区東一丁目2番20号
住友不動産渋谷ファーストタワー

【電話番号】 (03)6897-9500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営推進本部長 大澤 弘之

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区東一丁目2番20号
住友不動産渋谷ファーストタワー

【電話番号】 (03)6897-9500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営推進本部長 大澤 弘之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	12,155	112,918	208,799	207,161	189,094
経常利益 (百万円)	263	52,706	94,798	88,472	72,717
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主 に帰属する当期純損失() (百万円)	227	32,966	61,022	59,867	41,788
包括利益 (百万円)	95	33,114	60,997	59,848	41,758
純資産額 (百万円)	22,427	53,570	121,490	150,529	170,434
総資産額 (百万円)	26,492	104,178	165,039	176,974	192,123
1株当たり純資産額 (円)	278.45	664.39	1,441.66	1,889.16	2,176.88
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額() (円)	3.04	409.62	734.59	730.85	533.48
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	408.60	734.31	730.14	532.19
自己資本比率 (%)	84.5	51.4	73.6	84.9	88.4
自己資本利益率 (%)	-	86.8	69.7	44.1	26.1
株価収益率 (倍)	-	11.9	5.7	7.3	7.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	321	49,921	69,060	41,303	49,975
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	976	12,795	1,524	1,950	5,601
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,203	11,390	6,646	31,386	22,447
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	16,818	65,413	126,316	134,278	156,190
従業員数 (人)	364	437	558	646	775
(外、平均臨時雇用者数)	(68)	(59)	(115)	(145)	(164)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数は各期の正社員の合計であります。

3. 当社は、平成26年7月1日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。第15期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額()及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

4. 第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

5. 第15期の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

6. 第15期の株価収益率については、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	9,666	106,990	199,025	195,756	178,813
経常利益 (百万円)	596	52,169	96,657	88,373	71,873
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	7	32,919	61,959	60,097	41,363
資本金 (百万円)	7,034	7,034	9,698	9,698	9,698
発行済株式総数 (株)	16,640,600	83,203,000	84,295,500	81,879,450	78,230,850
純資産額 (百万円)	21,827	52,775	121,656	150,944	170,454
総資産額 (百万円)	25,048	101,181	161,949	171,507	189,683
1株当たり純資産額 (円)	271.04	654.59	1,443.70	1,894.43	2,177.19
1株当たり配当額 (円)	14.00	82.00	147.00	147.00	121.00
(1株当たり中間配当額)	(-)	(23.00)	(70.00)	(56.00)	(64.00)
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額() (円)	0.10	409.04	745.87	733.66	528.06
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	408.02	745.59	732.94	526.78
自己資本比率 (%)	87.0	52.2	75.1	87.9	89.5
自己資本利益率 (%)	-	88.3	71.0	44.1	25.8
株価収益率 (倍)	-	11.9	5.6	7.3	7.4
配当性向 (%)	-	20.0	19.7	20.0	22.9
従業員数 (人)	272	329	431	508	598
(外、平均臨時雇用者数)	(51)	(18)	(34)	(64)	(72)

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数は各期の正社員の合計であります。
3. 当社は、平成26年7月1日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。第15期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額()及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、1株当たり配当額につきましては、第15期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。
4. 第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。
5. 第15期の自己資本利益率については、当期純損失であるため記載しておりません。
6. 第15期の株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	概要
平成11年6月	Web系求人情報サイト「Find Job！」の運営のため、東京都渋谷区神泉町に有限会社イー・マーキュリーを設立（出資金300万円）
平成12年10月	株式会社イー・マーキュリーへ組織変更（資本金1,000万円）
平成16年2月	インターネットメディア事業（現・メディアプラットフォーム事業）としてソーシャル・ネットワーキング サービス（注）「mixi」の運営を開始
平成18年2月	株式会社ミクシィに商号変更
平成18年9月	東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
平成23年4月	インターネット求人広告事業「Find Job！」を分社化し、株式会社ミクシィ・リクルートメントを設立
平成24年3月	米国にmixi America, Inc.（連結子会社）を設立
平成25年9月	株式会社ノハナ（連結子会社）を設立
平成25年10月	スマートフォンネイティブゲーム「モンスターストライク」の提供を開始
平成25年12月	LINE株式会社から新設分割により結婚支援事業を承継した株式会社Diverseの全株式を取得し、連結子会社化
平成27年3月	株式会社フンザの全株式を取得し、連結子会社化

（注）ソーシャル・ネットワーキング サービス(以下「SNS」という。)とは、身近な友人・知人とのコミュニケーションや、共通の趣味嗜好に関する情報交換等を目的として利用されるWebサービスであります。

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ミクシィ）、連結子会社17社により構成されております。

当社グループの事業内容及び当社と主要な関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

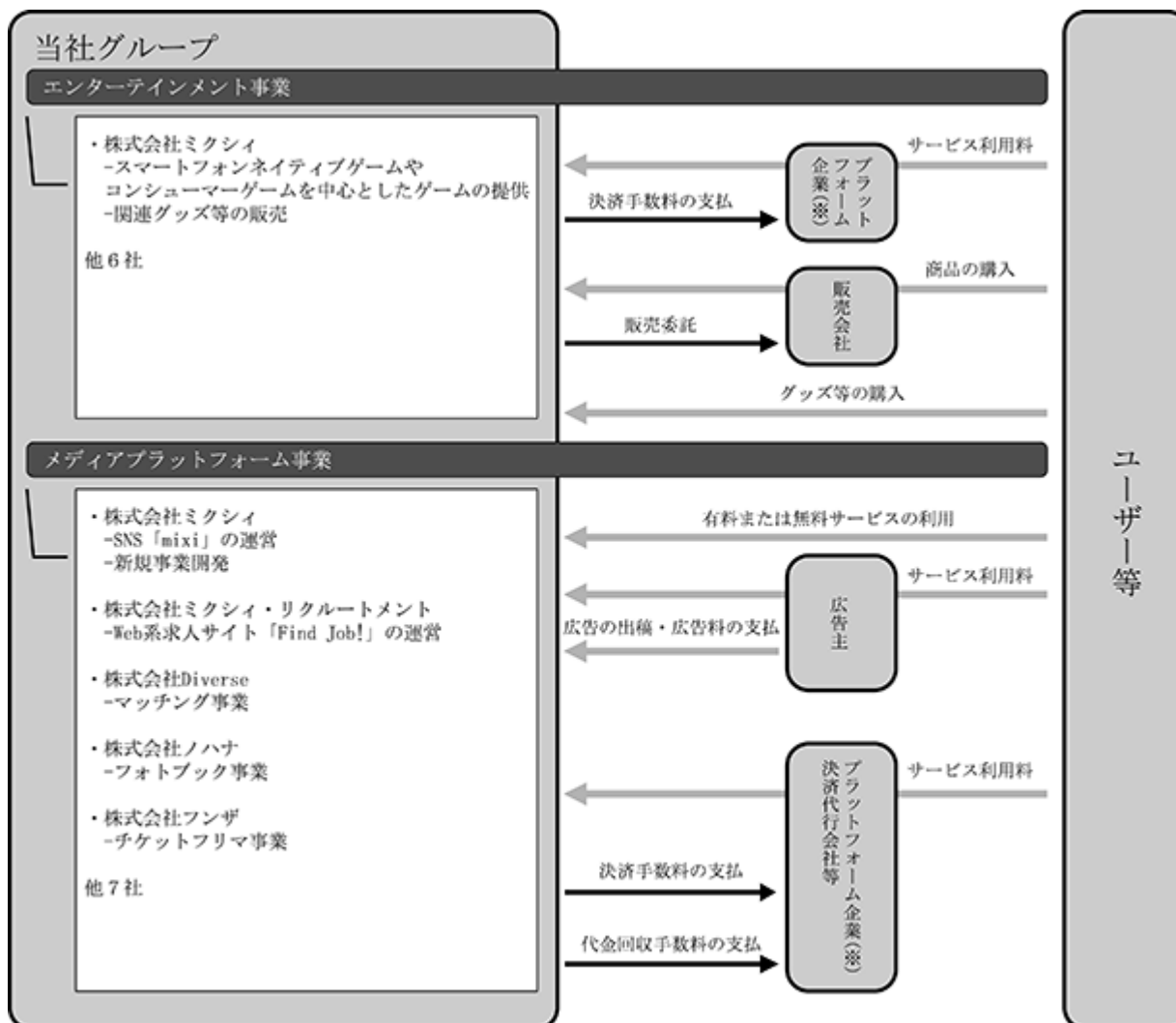
(1) エンターテインメント事業

当事業では、スマートフォンネイティブゲームを中心としたゲームの提供を行っており、主にユーザーからの有料サービス利用料を収益源として事業展開しております。

(2) メディアプラットフォーム事業

当事業では、インターネットを活用したサービスの運営、並びにそれらサービス運営会社への投資を行っており、ユーザーからの有料サービス利用料及び企業側からの広告料を収益源として事業展開しております。

[事業系統図]



※ プラットフォーム企業とは、「Google Play」を運営するGoogle Inc.や「App Store」を運営するApple Inc.等になります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所 有割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
株式会社ミクシィ・リクルートメント	東京都渋谷区	10百万円	インターネット 求人広告事業	100.0	広告取引 役員の兼任 従業員の出向
mixi America, Inc.	米国デラウェア州	0.5米ドル	米国内の投資及 び市場調査	100.0	役員の兼任
Scrum Ventures Fund , L.P. (注) 3、4	米国デラウェア州	505万米ドル	米国内の投資	99.0 (99.0)	-
アイ・マーキュリーキャピタル株 式会社	東京都渋谷区	50百万円	投資関連事業	100.0	役員の兼任 従業員の出向 資金援助
株式会社ノハナ	東京都渋谷区	50百万円	フォトブック事 業	100.0	役員の兼任 資金援助
株式会社Diverse	東京都渋谷区	100百万円	マッチング事業	100.0	従業員の出向
株式会社フンザ	東京都渋谷区	33百万円	チケットフリマ 事業	100.0	役員の兼任 従業員の出向
株式会社スマートヘルス	東京都渋谷区	5百万円	ウェルネス事業	100.0	役員の兼任 従業員の出向 資金援助
株式会社ラーテル	東京都渋谷区	225百万円	コミュニケー ション事業	100.0	役員の兼任 従業員の出向 資金援助
他 8 社					

- (注) 1. 特定子会社に該当する会社はありません。
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3. 資本金又は出資金の欄にはファンドサイズ(コミットメント額)を記載しております。
4. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数となっております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
エンターテインメント事業	464 (63)
メディアプラットフォーム事業	244 (84)
全社(共通)	67 (17)
合計	775 (164)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、契約社員を含む)は、当連結会計年度の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社(共通)は管理部門の従業員数であります。
3. 前連結会計年度末に比べ従業員数が129名増加しておりますが、これは主にエンターテインメント事業での業容拡大に伴う採用の増加によるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
598 (72)	33.2	3.4	6,658

セグメントの名称	従業員数(人)
エンターテインメント事業	400 (37)
メディアプラットフォーム事業	131 (18)
全社(共通)	67 (17)
合計	598 (72)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、契約社員を含む)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)は管理部門の従業員数であります。
4. 前事業年度末に比べ従業員数が90名増加しておりますが、これは主にエンターテインメント事業での業容拡大に伴う採用の増加によるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社には労働組合はありませんが労使関係は良好であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループでは、事業ドメインをコミュニケーションサービスとし、経営資源を集中してまいります。コミュニケーションサービスを通して世の中に新しい価値を生み出し続けることで、社会的責任を果たしながら、継続的な企業価値向上に向け努力してまいります。

(2) 目標とする経営指標

より高い成長性と利益の創出を目指す観点から、経営指標においては売上高及びEBITDA（ ）の向上を目指しております。

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

(3) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループでは、デバイス環境の変化、オンラインでのコミュニケーション手段の多様化をはじめとした外部環境が急変する中、新しいサービスを生み出し続けてまいりました。

当連結会計年度には、「メディアプラットフォーム事業」のセグメント区分に属する当社の子会社である株式会社フンザが運営する「チケットキャンプ」に係るサイト上の表示について商標法違反及び不正競争防止法違反の容疑で捜査当局による捜査を受けました。また、同社の前代表取締役が詐欺の共犯の疑いで捜査当局により捜査の対象とされ、不起訴処分となりました。このような状況の中、当社及び子会社におきましては、これまで捜査機関による捜査に全面的に協力してまいりましたが、平成30年6月22日付で、当社の前代表取締役、当社の子会社である株式会社フンザの前代表取締役、同社の前取締役、及び株式会社フンザが、商標法違反の容疑で神戸地方検察庁に書類送検されました。このような事態に至りましたことにつきましては、厳粛に受け止め、引き続き捜査に協力して参ります。

なお、当社の前代表取締役より、関係者の皆様に多大なご心配をお掛けしたことを踏まえ、混乱を回避するべく、平成30年6月22日付で当社代表取締役社長および取締役を辞任する旨の申し出がなされました。

当社としましては、当該申し出を受け、同日をもって、新任の代表取締役の選任を行っております。

株主・投資家の皆様をはじめ、関係各位には、ご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

当社グループは、商標法違反及び不正競争防止法違反の容疑の件について、事実の確認及び原因の究明のため、平成29年12月12日に外部の弁護士を交えた社内調査委員会を設置し、同月25日に同委員会より調査報告書を受領し、同月27日に公表いたしました。同委員会による調査報告をふまえ、同日、「チケットキャンプ」事業の終了を決定いたしました（平成30年5月31日をもって同事業を終了しました。）。

また、「チケットキャンプ」事業に関し、客観的かつ専門的な見地からの調査分析を実施するため、平成30年1月24日に第三者委員会を設置し、同年2月7日に同委員会から調査報告書を受領し、同月14日に公表いたしました。同委員会による調査報告においては、株式会社フンザの買収判断に関する調査方法・意思決定プロセスに特段の問題はなかったとされ、買収後の当社による株式会社フンザの管理体制や同社社内における管理体制そのものにも特段の問題があったとは認められないとされた一方で、当社による株式会社フンザの管理体制の運用面において必ずしも十分な情報共有が図られていたとは言えない点があったこと、株式会社フンザの経営判断にレピュテーションリスクに対する配慮が不足していた面があることは否めない等の指摘を受けました。

第三者委員会からのご指摘をふまえ、既に当社における管理担当取締役の選任の決定及び社外取締役候補者の増員、統括管理本部の設置、子会社管理の専門部署の設置、内部監査室の増員、監査役室の設置、グループ管理及びコンプライアンス領域担当執行役員の選任の決定等を実施しており、このような体制の整備を進めるとともに運用面での実効性の向上に努めてまいります。

エンターテインメント事業におきましては、サービス開始5年目となった「モンスターストライク」をより多くのユーザーに長く愛される国民的コンテンツへと育てていくための取り組みを行う一方、新規ゲームタイトルの開発を進めていくほか、アニメ等を通じて新規ヒットタイトルの創出も進めてまいります。

また、メディアプラットフォーム事業におきましては、新しいコミュニケーションサービスを生み出していくこと、既存サービスにおいてもエンターテインメント領域で培ったバイラルコミュニケーション設計力を活かしていくことで更なる拡大を図ってまいります。

さらに、新規領域としてスポーツ・ウェルネスといった領域にも進出し、メディア領域同様、当社の強みを活かした事業展開を図ってまいります。

2 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社の株式に関する投資判断は、本項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、特段の記載がない限り、提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 事業環境について

モバイル市場について

当社グループは、主要事業においてスマートデバイスを通じて各種サービスを提供しておりますが、高速化・低価格化によるモバイルネットワークの利用の拡大及び高性能化・低価格化によるスマートデバイスの普及の拡大等により、モバイル関連市場が今後も拡大していくと見込んでおり、当該市場の拡大が当社グループの事業展開の基本条件であると考えております。しかしながら、モバイル関連市場は、ブラウザゲームからスマートフォンネイティブゲームへの急速な移行に見られるように、非常に変化が激しい状況にあります。モバイル関連市場は国内外の経済状況の変動、法的規制、技術革新、関連する市場の動向等様々な要因による影響を強く受けるため、今後新たな法的規制の導入や技術革新、通信事業者の動向の変化などにより、急激かつ大幅な変動が生じる可能性があります。当社の予期せぬ要因によりモバイル関連市場の発展が阻害され、又は当社の想定する成長が実現しなかった場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

競合について

当社グループの主要事業においては、スマートデバイスを通じて各種サービスを提供しております。スマートデバイスを通じた各種サービスは、参入障壁が低く、多くの企業が参入しており、国内外の企業との競合が激しい状況にあります。今後も、資本力、マーケティング力、知名度や専門性、新規サービスの開発力、事業ポートフォリオ等において、当社グループより強い競争力を有する企業等との競合又は新規参入が拡大する可能性があり、競争の激化やその対策のためのコスト負担等により、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、家庭用ゲーム機や動画共有サイト等のサービスと、当社グループが提供するスマートデバイスを通じた各種サービスは、余暇に手軽に楽しむ娯楽という点でユーザー層や利用目的が重なる傾向にあり、同じユーザー層の余暇を奪い合う点において間接的に競合する関係にあります。当社グループの提供するサービスのユーザーが、これらの競合するサービスを利用するために費やす時間が増えた場合には、当社グループのサービスに対する需要が減少するなど、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

技術革新について

当社グループが事業を展開するインターネット業界においては、事業に関連する技術革新のスピードや顧客ニーズの変化が速く、それに基づく新サービスの導入が相次いで行われております。これらの変化に対応するため、優秀な技術者を確保するとともに先端技術の研究やシステムへの採用等、必要な対応を行っておりますが、何らかの要因により変化に対する適時適切な対応ができない場合には、業界における競争力が低下し、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 事業上のリスクについて

ユーザーの嗜好や興味・関心の変化への対応について

当社グループが提供するサービスの主なユーザーは、若年層を含むモバイルを利用する一般ユーザーであり、当社グループによるユーザーの獲得・維持、利用頻度、課金利用数はその嗜好の変化による影響を強く受けます。当社グループはかかるユーザーの多様化する嗜好の変化に対応するため、サービスの拡充、集客強化及び活性化のための対策を適切なタイミングで定期的に講じる方針ですが、スマートフォンネイティブゲーム等、当社グループの主たるサービスにおいては、ユーザーの嗜好の移り変わりが激しく、トレンドの変化が急速かつ急激である傾向にあり、ユーザーニーズの的確な把握やニーズに対応するコンテンツの提供が何らかの要因により適時適切に実行できない場合には、当社グループの提供するサービスのユーザーへの訴求力が低下し、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、エンターテインメント事業において、スマートフォンネイティブゲーム等のサービスを提供しており、当事業における当社グループの提供するゲームの課金売上高が当社グループの収益の大半を占めており、その中でも特定のタイトル(「モンスターストライク」)の売上高に大きく依存しております。

当社グループは、「モンスターストライク」の利用を維持・促進するため、ゲームの機能改善や新機能の追加、定期的なイベントの開催、各種プロモーション等によるユーザーの利用の活性化を図っておりますが、かかる対策が適時適切に行えなかった場合、又はかかる対策が功を奏さなかった場合など、何らかの理由によってユーザーの興味・関心を維持できない場合、又は競合他社が当該タイトルよりも魅力あるタイトルを市場に投入するなどして、「モンスターストライク」の競争力が低下した場合、ユーザー数の減少、課金ユーザー比率の低下、課金利用の減少等により、当社の事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

また、ユーザーの興味・関心を高めるべく、新規タイトルの開発・普及を行ってまいります。当社グループが、

ユーザーの嗜好の変化等を常に適切に把握し、新規タイトルに反映できる保証はありません。さらに、新規タイトルの開発及び普及のためには、多額の開発費用及び広告宣伝などの費用が必要であるところ、開発した新規タイトルの普及・課金が想定通り進捗しない場合には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

ユーザー獲得の依存について

当社グループが、エンターテインメント事業において提供するスマートフォンネイティブゲーム等のサービスは、スマートデバイスのアプリケーションとして、Apple Inc.及びGoogle Inc.等のプラットフォーム運営事業者を介して提供されており、代金回収やシステム利用、ユーザー獲得等において、かかるプラットフォーム運営事業者に実質的に依存しております。当社グループは、これらのプラットフォーム運営事業者との良好な関係の構築に努めておりますが、当社グループはその収益の大部分をスマートフォンネイティブゲームの課金による売上高に依存しているため、何らかの原因により、これらのプラットフォーム運営事業者との契約継続が困難となった場合やプラットフォーム事業者の運営方針や手数料等に変更が生じた場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは、サービスの開発、提供について、様々な外部事業者に対し業務の委託を行っており、エンターテインメント事業におけるスマートフォンネイティブゲームの開発の一部についても特定の外部事業者に委託しております。当社グループは、これらの外部事業者とは良好な関係の構築に努めておりますが、何らかの原因によりこれらの外部事業者との関係が悪化した場合には、当社グループのサービスの維持及び新規開発に支障をきたす可能性があります。また、当社グループは、当社グループのサービスの品質の管理及び維持に万全を期しておりますが、かかる外部事業者による活動を完全に制御することは不可能であり、当社グループによる管理・監督が行き届かない可能性があります。上記のような事由により、当社グループのサービスの品質の低下やこれによる当社グループのサービスに対するユーザーの信頼の低下が生じた場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

グローバル展開について

当社グループは、米国、中国、台湾等、世界各国でスマートフォンネイティブゲームを配信し、又はライセンスの供与を行っており、今後も更なる事業拡大のために海外市場におけるスマートフォンネイティブゲームの展開が重要な施策であると考えております。しかしながら、海外展開においては、各国の法令、政治・社会情勢、文化、宗教、ユーザーの嗜好や商慣習の違い、為替変動等を始めとした潜在的リスクに対処できないことにより、想定通りの成果を上げることができない可能性があり、この場合には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

また、当社グループはスマートフォンネイティブゲームの海外展開にあたり、言語や文化の違いを踏まえたローカライズを行ったうえで、現地での広告宣伝を実施するなど、現地ユーザーの獲得と現地での当社グループのサービスの浸透に努めておりますが、当社グループ又は当社グループのサービスが、海外でも日本国内と同様に受け入れられる保証はありません。また、ローカライズを適切に行うことができなかった場合には、現地ユーザーに受け入れられず、場合によってはユーザーからの批判に晒される可能性があり、かかる場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

当社グループ及び当社グループの製品、サービス、事業に対する信頼又は社会的信用について

当社グループは、主としてインターネットに接続するスマートデバイス及びPC向けにサービスの提供をおこなっており、当社グループの提供するサービスのユーザーはインターネット上の情報に頻繁にアクセスする傾向にあります。インターネットはその特性上、根拠の有無に関わらず様々な情報が交わされるため、当社グループが提供するサービスは特にインターネット上の風評による被害を受けやすい傾向にあります。当社グループは当社グループ及びその提供するサービスに関する評判の維持、向上に努めておりますが、ユーザーの根拠の乏しい風説等により、当社グループの評判・信頼が傷つくとともに、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループが提供するサービスにはユーザー同士による双方向コミュニケーションを仲介するものがあります。当社グループでは、ユーザー同士のトラブルの回避や違法行為等を防止する観点から、ユーザーに対する啓蒙やモニタリングに努めておりますが、一部の悪質なユーザーによる不適切な行為や違法行為等を完全には防ぐことができない可能性があります。ユーザーによりこのような行為が行われた場合には、当社グループが提供するサービスの安全性、信頼性が低下し、ユーザー数が減少する可能性があり、また法的な紛争に巻き込まれ、公的機関から指導を受けることとなる可能性があり、このような場合には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

当社グループは、当社グループのサービスの開発、提供について、様々な外部事業者に対し業務の委託を行っておりますが、当社グループがかかる外部事業者の活動を完全に制御することは不可能であるため、かかる外部事業者による個人情報の漏えいその他の違法行為又は不適切な行為等が行われた場合には、当社グループ又は当社グループのサービスに対するレピュテーションが低下し、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

当社グループは、「mixi」「モンスターストライク」等、日本において高いブランド認知度を有するサービスを提供しており、ブランド価値の維持及び強化が、ユーザーの信頼確保、ユーザー基盤の拡大・利用の促進、新たな取引先の確保のために重要であると考えております。

しかしながら、当社グループがブランド価値の維持及び強化に必要な投資を行えない場合、競合他社がより競争力のあるブランドを確立した場合等には、当社グループのブランド価値が低下し、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、ブランド価値の維持と強化には多額の費用と人的資源の投下が必要であるところ、十分な投資を行ってもブランド価値の維持・強化を実現できる保証はなく、何らかの理由により当社グループのブランド価値が低下した場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 事業推進体制について

人材の確保及び育成について

当社グループは、今後想定される事業拡大に伴い、継続した人材の確保が必要であると考えており、継続して優秀な人材を適切に確保するとともに、人材の育成に努めていく方針であります。しかしながら、優秀な人材の確保が計画通り進まなかった場合には、当社グループの競争力の低下や事業の拡大が制約される可能性があり、この場合、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。

内部管理体制について

当社グループは、企業が継続して成長し続けるためには、人材、資本、サービス、情報資産の適正な活用のために必要な体制を構築し、内部統制が有効に機能することが不可欠であるとの認識のもと、代表取締役社長直轄の独立した組織として内部監査室を設置しており、業務上の人為的なミスやその再発、内部関係者の不正行為等が起きることのないよう、内部管理体制の充実に努めております。しかしながら、事業の急速な拡大等により、十分な内部管理体制の構築が追いつかないという状況が生じた場合、適切な業務運営、管理体制の構築が困難となり、当社グループの事業及び業績に影響を与える可能性があります。

情報管理体制について

当社グループは、メディアプラットフォーム事業において、ユーザーの登録情報等の個人情報を取得して利用しているため、「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者としての義務を課されております。

当社グループは、個人情報の外部漏えいの防止はもちろん、不適切な利用、改ざん等の防止のため、個人情報の管理を事業運営上の重要事項と捉え、個人情報保護基本規程等を制定し、個人情報の取り扱いに関する業務フローを定めて厳格に管理するとともに、全グループの社員を対象として社内教育を徹底するなど、同法及び関連法令並びに当社グループに適用される関連ガイドラインの遵守に努めるとともに、個人情報の保護に積極的に取り組んでおります。

また、個人情報を保管しているサーバーについても24時間管理のセキュリティ設備のあるデータセンターで厳重に管理されており、加えてこのサーバーに保管されているデータへのアクセスは、一部の社員に限定されております。

しかしながら、当社グループが保有する個人情報等につき、漏えい、改ざん、不正使用等が生じる可能性を完全に排除することはできません。また、これらの事態に備え、個人情報漏えいに対応する保険に加入しておりますが、全ての損失を完全に補填できるとは限らず、これらの事態が起こった場合、適切な対応を行うための相当なコストの負担、損害賠償請求、当社グループに対する信用の低下等によって、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

事業の従事年数が短いことについて

当社は平成11年に設立し、平成16年にソーシャル・ネットワーキング・サービス「mixi」の運営開始、平成18年に東京証券取引所マザーズ市場への上場、平成25年にスマートフォンネイティブゲーム「モンスターストライク」の提供を開始した比較的業歴が浅い会社であるため、その事業の一部に従事年数が短いものを含んでおります。当社グループでは、これを補うべく、経験を積んだ優秀な人材の確保に努めておりますが、なお組織全体としての経験不足により予定通りにサービス運営が出来ない場合や事業環境等の変化に適切に対応できない場合等には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、業歴が浅いため、過年度の財政状態及び経営成績のみでは、今後の当社グループの業績や成長性を判断する材料としては必ずしも十分でない可能性があります。

(4) システムについて

事業拡大に伴う継続的な設備・システム投資について

当社グループは、今後のユーザー数及びアクセス数の拡大に備え、継続的にシステムインフラ等への設備投資を計画しておりますが、当社グループの計画を上回る急激なユーザー数及びアクセス数の増加等があった場合、設備投資の時期、内容、規模について変更せざるを得なくなる可能性があります。このような事態が生じた場合には、設備投資、減価償却費負担の増加が想定され、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

システム障害・自然災害について

当社グループは、事業を運営するためのシステムを外部事業者が保有するデータセンターに設置し、セキュリティ強化による不正アクセス対策や、データのバックアップ、設備電源の二重化等の運用・管理体制を構築しております。しかしながら、サービスへのアクセスの急増などの一時的な過負荷や電力供給の停止、ソフトウェアの不具合、外部連携システムにおける障害、コンピュータウイルスや外部からの不正な手段によるコンピュータへの侵入、自然災害、事故など、当社グループの予測不可能な様々な要因によってコンピュータシステムがダウンした場合、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

具体的には、当社グループのインターネットサービスの運営が制限されることにより、広告配信が実現されないこ

と、広告配信の取りやめの発生、ユーザーから有料サービスにおける利用料を回収できない状況に陥る等により、当社グループの売上が減少する可能性があります。また、当社グループの事業所及びコンピュータネットワークのインフラは首都圏に集中しているため、同所で大規模な自然災害等が発生した場合には多大な損害を被る可能性があり、復旧等に際して特別な費用負担を強いられることにより、当社グループの利益が減少する可能性があります。更には、サーバーの作動不能や欠陥等に起因し、信頼が失墜し取引停止等に至る場合や、当社グループに対する損害賠償請求等が発生する場合も想定され、このような場合には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 法的規制等について

当社グループの事業は、「電気通信事業法」、「資金決済に関する法律」、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（以下「青少年ネット環境整備法」という。）、「個人情報の保護に関する法律」、「不当景品類及び不当表示防止法」、「特定商取引に関する法律」、「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」、及び「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」等の各種法令や、監督官庁の指針、ガイドライン等による規制を受けております。このような法令の制定や改正、監督官庁による許認可の取消又は処分、新たなガイドラインや自主的ルール策定又は改定等により、当社グループの事業が新たな制約を受け、又は既存の規制が強化された場合には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループの事業に適用のある法令のうち、特に重要な規制は以下の通りです。

(ア) 「電気通信事業法」

当社グループは、「電気通信事業者」として届出を行っており、通信の秘密の保護、障害発生時の報告等の義務が課せられております。当社グループが、本法令に違反した場合には、業務改善命令等の行政処分を受ける可能性があります。このような場合には当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(イ) 「資金決済に関する法律」

「mixi」ゲームやスマートフォンネイティブゲームといった一部サービスにおいて利用されている有料の「仮想通貨」について、同法が適用されます。このため、当社グループは関東財務局への登録を行い、同法、府令等の関連法令を遵守し業務を行っております。しかしながら、当社グループがこれらの関連法令に抵触した場合、業務停止命令や登録取消し等の行政処分を受けることも想定され、このような場合には当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(ウ) 「青少年ネット環境整備法」

この法律は、現状、インターネット運営事業者等に対して、インターネット上の違法・有害情報について青少年閲覧防止措置を講ずる努力義務を課すに過ぎないものの、青少年を取り巻くインターネット上の違法・有害情報に対する運営事業者への社会的責任は大きくなってきており、今後、インターネット運営事業者等に特別の法的義務を課された場合、当社の事業展開が制約される可能性があります。

(6) 知的財産権について

当社グループでは、知的財産権の確保が競争の優位性を担保するための重要な要素と位置づけ、知的財産権に関する戦略の検討、取得・管理方針の策定等の知的財産権に関する施策を集中的に推進する体制を構築しております。もっとも、知的財産権はその範囲が不明確であり、当社グループのサービス及び連携する第三者のサービスにおいて、第三者の知的財産権侵害の可能性を完全に把握することは困難であります。

また、当社グループの事業分野では、当社グループの認識していない知的財産権が既に成立している可能性又は新たに知的財産権が成立する可能性があります。当社グループが第三者の知的財産権を侵害することによる損害賠償請求や差止請求、又は当社グループに対する知的財産権の使用料の請求等を受けることにより、当社グループの事業、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

さらに、当社グループでは、オープンソースソフトウェアを活用したシステム開発を行っておりますが、オープンソースソフトウェアに関してはライセンスの種類が多岐にわたるうえ、その性質・効果について多様な議論があるところであり、予測できない理由等により当社グループによる知的財産権の利用に制約が発生する可能性があり、このような場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 投融資にかかるリスクについて

当社グループでは事業ポートフォリオを拡大すべく、積極的に投融資を実施していく方針であります。これらの投資は、それぞれの投資先企業と当社グループとの事業上のシナジー効果や投資先企業による収益貢献等を期待して投資を実行しておりますが、予定したシナジーが得られない場合やこれらの投資が回収できなくなるほか、投資先企業の業績によっては減損処理等実施する可能性があり、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループでは、投資事業組合等（ファンド）への投資も実施していく方針であります。ファンドが出資する未公開企業は、経営資源や開発力が限定されている企業も多く、将来性については不確定要素を多数かかえており、業績が悪化した場合など、投資資本が回収できず、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 業務提携・M&Aにかかるリスクについて

当社グループでは、事業規模の拡大と収益源の多様化を進めるため、当社グループのサービスと親和性の高い企業との業務・資本提携やM&Aを通じた事業の拡大に取り組んでおります。しかしながら、被買収企業との融合又は提携先との関係構築・強化が予定通り進捗しない場合、統合又は提携により当初想定した事業のシナジー効果等が得られない場合、何らかの理由により当該業務提携が解消された場合など、投資に要した資金、時間その他の負担に見合った利益を回収できない可能性があり、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループは、企業買収等に伴い、連結貸借対照表において相当額ののれんを計上しております。当社グループでは、適用のある会計基準に従ってかかるのれんを今後一定の期間にわたり償却いたしますが、事業環境や競合状況の変化等により期待する成果が得られないと判断される場合には、当該のれんについて減損損失を計上する必要があるため、これにより、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 新規事業について

当社グループでは、今後も持続的な成長を実現するために、新サービス・新規事業の創出、育成に積極的に取り組んでいきたいと考えております。このような施策を実施するためにシステム投資、広告宣伝費等の追加的な支出が発生することが想定され、これにより利益率が低下する可能性があります。また、新サービス・新規事業を創出、育成していく過程では、予測困難なリスクが発生する可能性があります。また、当社グループとして新サービス・新規事業の経験が浅い場合には、経験不足により円滑な事業運営ができない可能性があります。その結果、新サービス・新規事業の展開が計画通りに進まない場合や計画を中止する場合、開始した新規事業が期待した収益性を実現できない場合等には、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの経営成績、財政状態及びキャッシュ・フローの状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	前年同期比 増減率
売上高(百万円)	207,161	189,094	8.7%
営業利益(百万円)	89,008	72,359	18.7%
経常利益(百万円)	88,472	72,717	17.8%
親会社株主に帰属する当期 純利益(百万円)	59,867	41,788	30.2%

当連結会計年度におけるインターネット関連業界においては、株式会社MM総研の調査によると、2017年1月～2017年12月のスマートフォン出荷台数は前年比8.7%増加し3,199.4万台となりました。国内携帯電話端末の総出荷台数に占めるスマートフォン出荷台数は85.7%となっております。

このような経済環境の中、当連結会計年度の売上高は189,094百万円（前連結会計年度比8.7%減）となりました。また、営業利益は72,359百万円（前連結会計年度比18.7%減）、経常利益は72,717百万円（前連結会計年度比17.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は41,788百万円（前連結会計年度比30.2%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、事業セグメントの利益の測定方法は、減価償却費及びのれん償却額を考慮しない営業利益ベースの数値（EBITDA）にしております。

エンターテインメント事業

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)	前年同期比 増減率
売上高(百万円)	192,703	175,948	8.7%
セグメント利益(百万円)	94,267	78,438	16.8%

スマートフォンネイティブゲーム「モンスターストライク」を主力とするエンターテインメント事業においては、国内外で、TVCMや屋外広告等のプロモーション、eスポーツ促進を含むリアルイベントの実施、グッズの製作、映画や人気アニメとのタイアップ、オリジナルアニメの配信や劇場版公開などに加え、平成29年5月にはグッズ販売等を行う常設店舗を東京・渋谷にオープンいたしました。また、ゲーム利用者数は平成30年3月には全世界で4,500万人を突破しております。ユーザーの皆様の期待に応えるべく、サービスのライフタイムの長期化を目指し、アプリ内外でのユーザー還元の実施、映像・ソフトウェアの充実、マーチャンダイジング等のゲーム以外の領域の確立、新規タイトル等の開発を行うことによって、エンターテインメント事業のさらなる発展を図っております。

この結果、当事業の売上高は175,948百万円（前連結会計年度比8.7%減）、セグメント利益は78,438百万円（前連結会計年度比16.8%減）となりました。

メディアプラットフォーム事業

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	前年同期比 増減率
売上高(百万円)	14,457	13,146	9.1%
セグメント利益(百万円)	1,806	1,564	13.4%

メディアプラットフォーム事業では、B2C及びC2Cサービスにおいて新しい文化を創るサービスを生み出し続けることを目指しております。家族向け写真・動画共有アプリ「家族アルバム みてね」においては、平成29年10月には利用者が200万人を突破、平成29年7月より英語対応も開始しております。新規事業の立ち上げを加速すべく先行投資を実施しております。チケットフリマサービス「チケットキャンプ」につきましては、平成29年12月27日付の「調査委員会の調査報告書受領および今後の対応につきまして」にてお知らせしましたとおり、業務を完全に停止し、サービス提供を終了することとなりました。これにより、当連結会計年度におきまして、のれん償却費7,597百万円、固定資産の減損損失131百万円を特別損失として計上いたしました。なお、セグメント利益は営業利益ベースの数値（EBITDA）であるため、影響はございません。

この結果、当事業の売上高は13,146百万円（前連結会計年度比9.1%減）、セグメント利益は1,564百万円（前連結会計年度比13.4%減）となりました。

財政状態の状況

当連結会計年度末までの財政状態の主な変動としましては、資産については流動資産が172,256百万円（前連結会計年度末比18,125百万円増加）となり、主な要因としては、現金及び預金の増加があげられます。固定資産は19,866百万円（前連結会計年度末比2,977百万円減少）となり、主な要因としては、のれんの減少があげられます。

負債については、流動負債が21,641百万円（前連結会計年度末比4,659百万円減少）となり、主な要因としては、未払法人税等及び流動負債（その他）で計上されている預り金の減少があげられます。固定負債は47百万円（前連結会計年度末比96百万円減少）となり、主な要因としては、繰延税金負債及び固定負債（その他）で計上されている長期未払金の減少があげられます。純資産は170,434百万円（前連結会計年度末比19,904百万円増加）となり、主な要因としては、利益剰余金の増加があげられます。

経営の安定性を示す自己資本比率は、当連結会計年度において88.4%（前連結会計年度比3.5ポイント増）と高水準であり、財務の安全性が保持されております。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べて21,912百万円増加し、156,190百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は49,975百万円（前連結会計年度は41,303百万円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払による減少24,915百万円があったものの、税金等調整前当期純利益が64,920百万円となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は5,601百万円（前連結会計年度は1,950百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産及び投資有価証券の取得による支出2,974百万円、差入保証金の差入による支出3,573百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は22,447百万円（前連結会計年度は31,386百万円の使用）となりました。これは、自己株式の取得による支払10,195百万円及び配当金の支払い12,239百万円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

b. 受注状況

受注生産を行っておりませんので、受注状況に関する記載はしていません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
エンターテインメント事業	175,948	91.3
メディアプラットフォーム事業	13,146	90.9
合計	189,094	91.3

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

総販売実績に対する割合が10%を超える相手先がないため、記載を省略しております。なお、当社グループの事業の販売先については、「第1 企業の概況 3 事業の内容」の事業系統図に記載のとおり、一般ユーザーを販売先と捉えて、主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合を算定しております。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(売上高の状況)

エンターテインメント事業におきましては、「モンスターストライク」の世界累計利用者数が平成30年3月に4,500万人を突破する等、堅調に推移しておりますが、当事業の売上高は175,948百万円（前連結会計年度比8.7%減）となりました。

メディアプラットフォーム事業におきましては、チケットフリマサービス「チケットキャンプ」のサービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い売上高が減少し、当事業の売上高は13,146百万円（前連結会計年度比9.1%減）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は189,094百万円（前連結会計年度比8.7%減）となりました。

(営業利益の状況)

「モンスターストライク」の売上高の減少に伴い、営業利益は72,359百万円（前連結会計年度比18.7%減）となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益の状況)

株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い、のれんの全額償却と減損損失を認識したことによる特別損失の計上や税金費用等の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は41,788百万円（前連結会計年度比30.2%減）となりました。

(資本の財源及び資金の流動性についての分析)

当社グループの運転資金・設備資金については、主に自己資金により充当しております。当連結会計年度末の現金及び現金同等物は156,190百万円となり、将来資金に対して十分な財源及び流動性を確保しております。

(中長期的な会社の経営戦略)

当社グループでは、事業ドメインをコミュニケーションサービスとし、経営資源を集中してまいります。コミュニケーションサービスを通して世の中に新しい価値を生み出し続けることを基本戦略としております。今後の課題については、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」をご参照ください。

(キャッシュ・フローの分析)

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」をご参照ください。

(経営成績に重要な影響を与える要因について)

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」をご参照ください。

(経営者の問題認識と今後の方針について)

経営者の問題認識と今後の方針については、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」をご参照ください。

4 【経営上の重要な契約等】

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約の名称	契約内容	契約期間
株式会社ミクシィ	Apple Inc.	米国	iOS Developer Program License Agreement	iOS搭載端末向けアプリケーションの配信及び販売に関する契約	1年間（1年毎の自動更新）
株式会社ミクシィ	Google Inc.	米国	Google Playデベロッパー販売/配布契約書	Android搭載端末向けアプリケーションの配信及び販売に関する契約	定めなし

5 【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発活動は、主に新規事業の開発に関するものであります。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、エンターテインメント事業における635百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、サービス提供に係るシステムの安定運用や事業所の増床に伴う内装工事などを目的とした設備投資を実施しており、当連結会計年度の設備投資の総額は1,660百万円（うち有形固定資産1,350百万円、無形固定資産309百万円）となりました。その主なものは、コンピューター及びサーバー等の取得712百万円であります。

なお、当連結会計年度において重要な影響を及ぼす資産の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物 (百万円)	工具、器具 及び備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
本社他 (東京都渋谷区他)	全セグメント	ネットワーク 関連機器及び 業務施設等	568	1,251	306	98	2,225	598 (72)

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 現在休止中の主要な設備はありません。
 3. 帳簿価額のうち「その他」は、建設仮勘定、ソフトウェア仮勘定、商標権の合計であります。
 4. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（パートタイマー、契約社員を含む）は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 国内子会社

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備投資計画は、以下のとおりであります。

会社名	事業所名（所在地）	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	XFLAG STORE SHINSAIBASHI (大阪府)	エンター テインメ ント	店舗	251	2	自己資金	平成30年 3月	平成30年 6月	(注) 2

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 完成後の増加能力につきましては、合理的に算定できないため、記載を省略しております。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	264,000,000
計	264,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	78,230,850	78,230,850	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株であります。
計	78,230,850	78,230,850	-	-

(注) 提出日現在発行数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

決議年月日	平成28年8月5日	平成29年8月8日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 3	当社取締役 4
新株予約権の数(個)	1,338(注)1	955(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 133,800(注)1	普通株式 95,500(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1(注)2	1(注)2
新株予約権の行使期間	平成28年8月30日～ 平成58年8月29日	平成29年8月30日～ 平成59年8月29日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,898 資本組入額 949	発行価格 3,944 資本組入額 1,972
新株予約権の行使の条件	(注)3	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとする。	新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	(注)4

当事業年度の末日(平成30年3月31日)における内容を記載しております。なお、提出日の前月末(平成30年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

(注) 1. 当社が新株予約権発行後、株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整し、調整後に生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2. 当社が新株予約権発行後、合併、会社分割、株式交換または株式移転(以下総称して「合併等」という。)を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他付与株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で付与株式数を調整することができる。

なお、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各募集新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)に公告又は通知する。ただし、当該適用日の前日までに公告又は通知を行うことができない場合には、以後速やかに公告又は通知するものとする。

3. (1) 新株予約権者は、上記「新株予約権の行使期間」に定める行使期間内において、当社の取締役の地位を喪失した日(ただし、下記(2)ただし書きにて募集新株予約権の行使が認められる場合は、当社の監査役、執行役員、従業員又は当社社会の取締役、監査役、執行役員、従業員の地位のいずれの地位をも喪失した日)の翌日以降10日間に限り、募集新株予約権を行使することができる。

(2) 前号に関わらず、以下の事由に該当する場合には、新株予約権者は、募集新株予約権を行使することができないものとする。

新株予約権者の当社の取締役の在任期間が3年未満であるとき。ただし、当社の取締役の地位の喪失後、当社の監査役、執行役員、従業員又は当社子会社の取締役、監査役、執行役員、従業員の地位にある場合で、当社取締役会が募集新株予約権の行使を認めた場合は除く。

新株予約権者が、当社若しくは当社子会社の取締役、監査役を解任された場合又は当社若しくは当社子会社の従業員（執行役員である場合を含む。）として懲戒解雇、諭旨退職又はそれと同等の処分を受けた場合

新株予約権者が、会社法第331条第1項第3号又は第4号に該当した場合

新株予約権者が、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権総数引受契約書」に違反した場合、又は、当社との間の信頼関係を著しく損なう行為を行ったと当社取締役会が認めた場合

新株予約権者が、書面により募集新株予約権の全部又は一部を放棄する旨を申し出た場合

- (3) 新株予約権の割当を受けた者が死亡した場合、その者の相続人は、被相続人たる新株予約権者が前号のいずれかの事由に該当していないことを条件として、第1号の定めにかかわらず、当該被相続人が死亡した日の翌日から3ヶ月を経過する日までの間に限り、募集新株予約権を行使することができるものとする。
- (4) 新株予約権者が募集新株予約権を行使する場合は、保有する全ての募集新株予約権を一括して行使するものとする。
- (5) その他の行使の条件については、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権総数引受契約書」に定めるところによる。

4. 組織再編における再編対象会社の新株予約権の交付に関する決定方針

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日の直前において残存する募集新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案の上、決定する。

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

本新株予約権の取り決めに準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の取得条項

本新株予約権の取り決めに準じて決定する。

その他の新株予約権の行使の条件

本新株予約権の取り決めに準じて決定する。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成25年4月1日 (注)1	15,355,494	15,510,600	-	3,765	-	3,735
平成26年3月17日 (注)2	1,130,000	16,640,600	3,268	7,034	3,268	7,004
平成26年7月1日 (注)3	66,562,400	83,203,000	-	7,034	-	7,004
平成27年7月30日 (注)4	1,092,500	84,295,500	2,664	9,698	2,664	9,668
平成28年8月31日 (注)5	2,416,050	81,879,450	-	9,698	-	9,668
平成29年4月28日 (注)6	2,201,400	79,678,050	-	9,698	-	9,668
平成29年8月31日 (注)7	1,447,200	78,230,850	-	9,698	-	9,668

- (注) 1. 平成25年2月21日開催の取締役会決議により、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行ったことによる増加であります。
2. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)
- 発行価格 6,110円
発行価額 5,785円
資本組入額 2,892.5円
払込金総額 6,537百万円
3. 平成26年5月14日開催の取締役会決議により、平成26年7月1日付で株式1株につき5株の株式分割を行ったことによる増加であります。
4. 海外募集による新株式発行
- 発行価格 5,100円
払込金額 4,878円
資本組入額 2,439円
払込金総額 5,329百万円
- なお、海外募集による新株式発行と同時に、自己株式の処分による普通株式2,507,500株の売出しを行っております。
5. 平成28年8月5日開催の取締役会決議により、平成28年8月31日付で自己株式2,416,050株を消却したことによる減少であります。
6. 平成29年4月21日開催の取締役会決議により、平成29年4月28日付で自己株式2,201,400株を消却したことによる減少であります。
7. 平成29年8月8日開催の取締役会決議により、平成29年8月31日付で自己株式1,447,200株を消却したことによる減少であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	19	37	100	518	38	11,187	11,899	-
所有株式数(単元)	-	22,024	19,987	2,363	321,643	165	415,998	782,180	12,850
所有株式数の割合(%)	-	2.81	2.55	0.30	41.12	0.02	53.18	100.00	-

(注) 自己株式229,300株(2,293単元)は、「個人その他」に含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
笠原 健治	東京都渋谷区	36,358,000	46.61
THE BANK OF NEW YORK 133972 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	RUE MONTOYERSTRAAT 46,1000 BRUSSELS,BELGIUM (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	1,656,100	2.12
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カ ストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	1,372,671	1.75
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	225 LIBERTY STREET,NEW YORK, NEW YORK,U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	981,133	1.25
SKANDINAVISKA ENSKILDA BANKEN S.A. 127200 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	PO BOX 487 L-2014 LUXEMBOURG (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	931,200	1.19
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	920,228	1.17
CDSIL AS DEPOSITARY FOR OLD MUTUAL GLOBAL INVESTORS SERIES (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ 東京支店)	80 HARCOURT STREET DUBLIN IE 2 (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	919,200	1.17
STATE STREET BANK WEST CLIENT TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	1776 HERITAGE DRIVE,NORTH QUINCY, MA 02171,U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	811,200	1.04
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	1 CHURCH PLACE,LONDON,E14 5HP UK (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	717,800	0.92
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	225 LIBERTY STREET,NEW YORK, NEW YORK,U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川インターシティA棟)	669,595	0.85
計	-	45,337,127	58.12

- (注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式229,300株(0.29%)があります。
2. 当社の筆頭株主である当社取締役会長笠原健治は、平成30年5月15日付で当社の自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による買付けに対して売付け注文を行い、1,206,100株を売却しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 229,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 77,988,700	779,887	-
単元未満株式	12,850	-	-
発行済株式総数	78,230,850	-	-
総株主の議決権	-	779,887	-

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ミクシィ	東京都渋谷区東 一丁目2番20号	229,300	-	229,300	0.29
計	-	229,300	-	229,300	0.29

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(平成29年5月10日)での決議状況 (取得期間平成29年5月11日～平成29年9月末日)	2,000,000	10,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	1,542,700	9,999
残存決議株式の総数及び価額の総額	457,300	0
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	22.9	0.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	22.9	0.0

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(平成30年5月10日)での決議状況 (取得期間平成30年5月15日～平成30年9月末日)	3,200,000	10,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	3,200,000	10,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	2,795,800	9,999
提出日現在の未行使割合(%)	12.6	0.0

(注) 1. 当期間における取得自己株式には、平成30年6月8日からこの有価証券報告書提出日までに取得した株式は含まれておりません。

2. 当期間における取得自己株式数及び価額の総額は約定ベースにて記載しております。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	3,648,600	19,075	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(新株予約権の権利行使)	-	-	-	-
保有自己株式数	229,300	-	3,025,100	-

(注) 1. 当期間における取得自己株式には、平成30年6月8日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の取得による株式は含まれておりません。

2. 当期間における取得自己株式数及び価額の総額は約定ベースにて記載しております。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のための内部留保の確保とのバランスを考慮しながら、連結配当性向20%を目途に配当を行うことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当・中間配当ともに取締役会であります。

上記方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株当たり57円の配当を実施いたしました。なお、中間期において1株につき64円の中間配当を実施いたしておりますので、当期の年間配当金は1株当たり121円となります。

次期（平成31年3月期）の配当につきましては、連結配当性向20%及び株主資本配当率（DOE）5%を目安に、年間配当金として1株当たり124円（うち中間配当金62円）を予定しております。

なお、当社は「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

（注）基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成29年11月8日 取締役会	4,992	64
平成30年5月10日 取締役会	4,446	57

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	9,060	19,640 6,970	6,670	5,440	7,190
最低(円)	1,064	5,040 3,005	2,962	3,300	3,930

（注）1．最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場におけるものであります。

2．第16期における 印は、平成26年7月1日の株式分割（1株 5株）による権利落後の株価を示しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	5,720	6,160	5,470	5,120	4,965	4,325
最低(円)	5,340	5,220	5,060	4,815	4,025	3,930

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性9名 女性2名 (役員のうち女性の比率18%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	-	木村 弘毅	昭和50年12月9日生	平成15年2月 株式会社モバイルプロダクション入社 平成17年3月 株式会社インデックス入社 平成20年6月 当社入社 平成24年8月 当社プロダクト開発部 プロダクトオーナー 平成25年11月 当社モンスタースタジオ プロデューサー 平成26年4月 当社モンスタースタジオ 部長 平成26年11月 当社執行役員 平成27年1月 当社モンスタースタジオ 本部長 平成27年6月 当社取締役就任(現任) 平成27年8月 当社エクスフラッグスタジオ 本部長 平成29年4月 当社XFLAG事業本部 本部長(現任) 平成30年4月 当社執行役員(現任) 平成30年6月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)3	100,000
取締役	デジタルエンターテインメント事業本部 本部長	多留 幸祐	昭和53年11月22日生	平成20年8月 株式会社ライブドア入社 平成24年1月 NHN Japan株式会社(現LINE株式会社)入社 平成26年2月 当社入社 平成26年2月 当社モンスタースタジオ企画グループ マネジャー 平成27年1月 当社モンスタースタジオ企画・運用部 部長 平成27年8月 当社エクスフラッグスタジオ本部企画・運用部 部長 平成28年7月 当社エクスフラッグスタジオ本部XFLAG GAMES 部長 平成29年4月 当社モンスター事業本部 本部長(現任) 平成29年6月 当社取締役就任(現任) 平成30年4月 当社執行役員(現任) 平成30年4月 当社デジタルエンターテインメント事業本部 本部長(現任)	(注)3	-
取締役	経営推進本部 本部長	大澤 弘之	昭和52年6月27日生	平成18年10月 株式会社ケイビーエムジェイ(現株式会社アピリッツ)入社 平成19年6月 当社入社 平成23年11月 当社経営推進本部経理財務部 部長 平成26年4月 当社経営推進本部経営推進室 室長 平成29年6月 当社経営推進本部 本部長(現任) 平成30年4月 当社執行役員(現任) 平成30年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	統括管理本部 本部長	奥田 匡彦	昭和53年4月25日生	平成16年2月 平成20年9月 平成23年2月 平成25年4月 平成27年1月 平成28年4月 平成29年1月 平成30年4月 平成30年4月 平成30年6月	ヤフー株式会社入社 ビットクルー株式会社入社 ビットクルー株式会社取締役副社長就任 当社入社 当社MS本部 本部長 当社オレンジスタジオ本部 本部長 マーシャル株式会社代表取締役就任(現任) 当社執行役員(現任) 当社統括管理本部 本部長(現任) 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
取締役 会長	Vantageスタ ジオ 本部長	笠原 健治	昭和50年12月6日生	平成11年6月 平成12年10月 平成18年2月 平成20年5月 平成20年10月 平成23年4月 平成23年7月 平成25年6月 平成28年4月 平成30年4月	有限会社イー・マーキュリー(現当社)設立 取締役就任 株式会社イー・マーキュリー(現当社)に組織変更 代表取締役社長就任 株式会社ミクシィに商号変更 代表取締役社長就任 上海明希網絡科技有限公司 董事長就任 株式会社ネクスパス(現株式会社トーチライト) 代表取締役就任 株式会社ミクシィ・リクルートメント 代表取締役就任 当社執行役員 当社取締役会長就任(現任) 当社Vantageスタジオ 本部長(現任) 当社執行役員(現任)	(注)3	35,151,900
取締役		青柳 立野	昭和46年8月8日生	平成5年10月 平成9年4月 平成19年2月 平成19年7月 平成19年8月 平成20年8月 平成22年2月 平成22年5月 平成22年6月 平成24年6月 平成29年3月	監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 株式会社マスターズ・トラスト会計社(現マスターズトラスト株式会社)入社 ハートワース・パートナーズ株式会社 代表取締役就任(現任) 株式会社シェア・ジェネレート 取締役就任 税理士登録 株式会社アムリード 社外監査役就任 BTホールディングス株式会社(現株式会社プリマジェスト) 社外監査役就任 当社監査役就任 当社取締役就任(現任) 株式会社すかいらく 社外監査役就任(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		嶋 聡	昭和33年4月25日生	昭和61年4月 財団法人松下政経塾（現公益財団法人松下政経塾）卒塾 昭和63年4月 同法人指導塾員 平成2年4月 同法人指導塾員 地域総合システムセンター事務局長 平成4年4月 同法人ちにか（地域から日本を変える）研究所所長 平成6年4月 同法人東京政経塾代表 平成8年10月 衆議院議員 当選 以後3期連続当選 平成13年9月 民主党 次の内閣総務大臣 平成14年12月 民主党 総務局長 平成15年11月 衆議院財務金融委員会 筆頭理事 平成16年12月 衆議院予算委員会 理事 平成17年11月 ソフトバンク株式会社（現ソフトバンクグループ株式会社）社長室長 平成19年4月 サイバー大学 客員教授 平成19年4月 東洋大学経済学部 非常勤講師 平成23年7月 自然エネルギー協議会 事務局長代行 平成23年7月 指定都市自然エネルギー協議会 事務局長代行 平成23年7月 公益財団法人東日本大震災復興支援財団 評議員 平成23年7月 公益財団法人自然エネルギー財団 理事 平成24年9月 Clean Energy Asia LLC Member of the board of directors 平成26年4月 ソフトバンク株式会社（現ソフトバンクグループ株式会社）顧問 平成26年4月 ソフトバンクモバイル株式会社（現ソフトバンク株式会社）特別顧問 平成26年9月 多摩大学 非常勤講師 平成27年4月 多摩大学 客員教授（現任） 平成29年4月 株式会社みんなれび 社外取締役就任（現任） 平成29年6月 当社取締役就任（現任） 平成29年6月 株式会社ボルテックス社外取締役就任（現任） 平成29年12月 株式会社オークファン社外取締役就任（現任）	(注)3	-
取締役		志村 直子	昭和49年6月5日生	平成11年4月 弁護士登録 平成11年4月 西村総合法律事務所（現西村あさひ法律事務所）入所 平成16年9月 Debevoise & Plimpton法律事務所 勤務 平成17年4月 ニューヨーク州弁護士登録 平成17年10月 西村ときわ法律事務所（現西村あさひ法律事務所）復帰 平成20年1月 西村あさひ法律事務所 パートナー（現任） 平成28年5月 株式会社旅工房 社外監査役就任（現任） 平成30年6月 当社取締役就任（現任）	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)	
監査役 (常勤)		加藤 孝子	昭和26年9月29日生	昭和45年4月 平成12年6月 平成16年3月 平成16年8月	日本無線株式会社入社 ネイブルリサーチ株式会社 取締役就任 エトー建物管理株式会社入社 株式会社イー・マーキュリー(現当社)常勤監査役就任(現任)	(注)4	1,000	
監査役		佐藤 孝幸	昭和44年10月10日生	平成4年4月 平成5年9月 平成8年4月 平成9年7月 平成12年10月 平成14年4月 平成16年7月 平成18年10月 平成19年5月 平成19年6月	スイス・ユニオン(現UBS)銀行東京支店入行 ソシエテジェネラル銀行東京支店入行 デロイト・トウシュ・トーマツ会計事務所(米国サン・フランシスコ事務所)入所 米国公認会計士(モンタナ州)登録 弁護士登録(東京弁護士会所属) 佐藤経営法律事務所代表(現任) エース損害保険(現Chubb損害保険)株式会社 社外監査役就任 ステート・ストリート信託銀行株式会社 社外監査役就任 株式会社シーズメン 社外監査役就任 当社監査役就任(現任)	(注)5	-	
監査役		若松 弘之	昭和46年9月20日生	平成7年4月 平成10年4月 平成20年10月 平成22年4月 平成22年6月 平成22年8月 平成23年6月 平成24年6月 平成26年9月 平成27年3月 平成27年6月 平成27年6月 平成29年8月	監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 公認会計士若松弘之事務所代表(現任) ビジネス・ブレイクスルー大学経営学部講師 株式会社ウィザス 社外監査役就任(現任) 税理士登録 株式会社イースタン 社外監査役就任 当社監査役就任(現任) 早稲田大学大学院ファイナンス研究科講師 キャストリア株式会社 社外監査役就任(現任) パイオニア株式会社 社外監査役就任(現任) 生活協同組合バルシステム東京 員外監事就任(現任) 株式会社レノバ社外監査役就任(現任)	(注)6	-	
計								35,252,900

- (注) 1. 取締役青柳立野、嶋聡及び志村直子は、社外取締役であります。
2. 監査役加藤孝子、佐藤孝幸及び若松弘之は、社外監査役であります。
3. 平成30年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成30年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成27年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 平成28年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

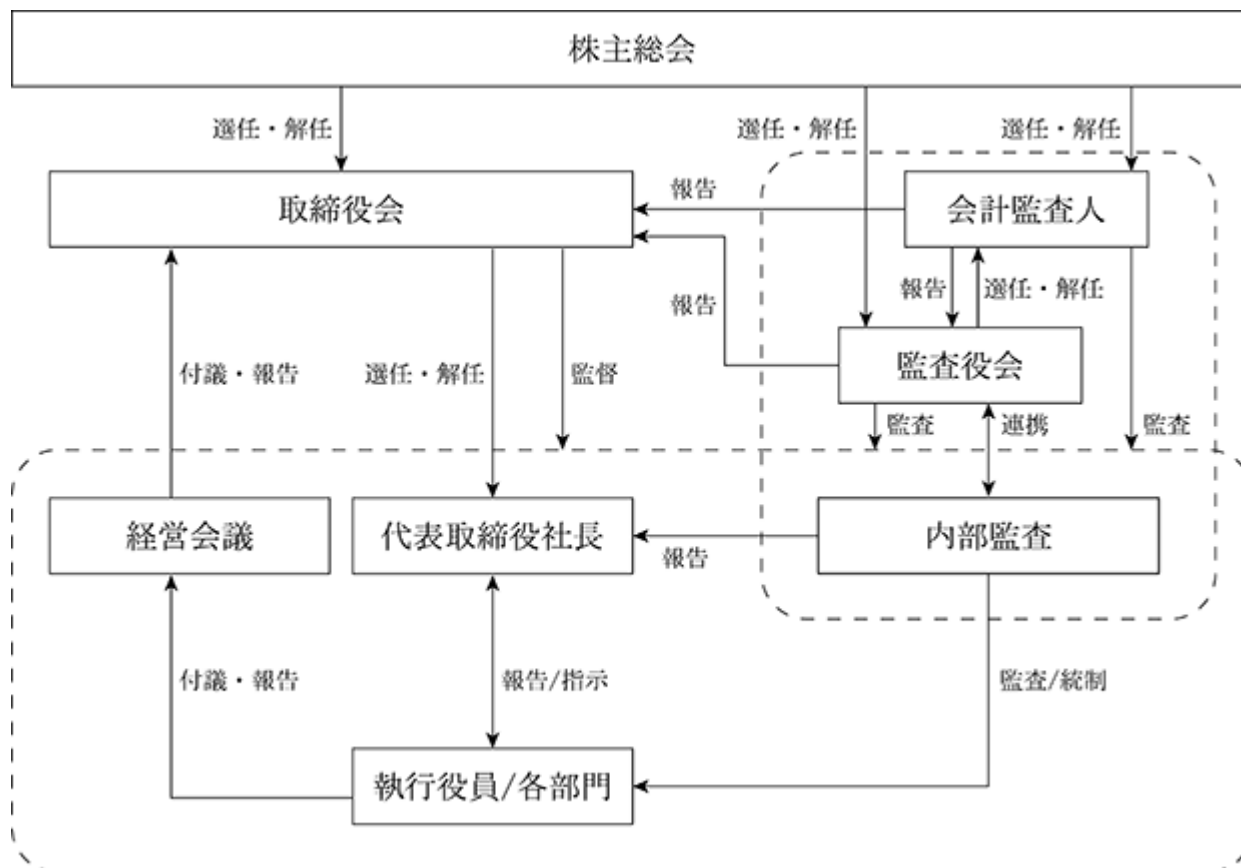
(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを企業価値の最大化を目指すための経営統治機能と位置付けております。このため、当社は事業の拡大に対応して、適宜、組織の見直しを行い、各事業の損益管理、職務権限と責任の明確化を図っております。また、会社の意思決定機関である取締役会の機能充実、監査役及び監査役会による取締役の業務執行に対する監視機能の充実、業務遂行上の不正を防止する内部統制機能の充実を図ることに注力しております。

コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社の提出日現在におけるコーポレート・ガバナンス体制の模式図は、以下のとおりであります。



イ 取締役及び取締役会

取締役会は社外取締役3名を含む取締役8名で構成され、原則として毎月1回定期的にと取締役会を開催し、迅速かつ効率的な意思決定を行う体制としております。また、取締役の経営責任をより明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役の任期を1年としております。

ロ 経営会議

当社では、取締役会の意思決定を速やかに行い、重要事項について十分な審議を行うために経営会議を設置しております。経営会議は、原則として毎月1回定期的に開催しておりますが、必要がある場合には随時開催することとしております。

ハ 監査役会

当社は、監査役設置会社であります。監査役会は3名の社外監査役（うち1名は常勤監査役）で構成されており、原則として毎月1回定期的に開催されております。また、監査役監査は年度計画に基づいて行われ、監査役会において報告・協議し、取締役に対し適宜意見を述べ、内部監査及び会計監査人との連携により全般的な監査を実施しております。

ニ 内部統制システムの整備状況

当社グループは、内部統制システム構築の基本方針に基づき、社内体制の整備を行っております。

当社グループは、「倫理規程」を制定し、コンプライアンスの重要性を掲げるとともに、その内容を情報システムを通じて全役員に周知、徹底しております。また、違法行為に対する牽制機能として内部通報制度を制定し、不祥事の未然防止を図るとともに、反社会的勢力排除に向けた体制整備を行っております。

情報管理体制としては、情報管理に関する規程を整備し、重要文書の特定や保管形態の明確化を行っているほか、個人情報漏洩についてのリスクを十分認識し、個人情報保護への体制を強化しております。また、情報の取扱いに関する権限の設定や社内教育による啓蒙活動の実施により情報保護の徹底を図っております。

ホ リスク管理体制の整備状況

当社グループを取り巻く様々なリスクを把握、管理するための規程を整備し、リスク管理に必要な体制の整備・強化を行っております。リスクマネジメント推進体制の最高責任者として代表取締役社長を位置づけるほか、その補佐機関として経営推進本部長を責任者とする「内部統制委員会」を設置し、当社グループが行う事業に関連するリスクを把握、評価し、必要に応じて顧問弁護士等の専門家に助言・指導を求め、その低減に努めております。

へ 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制の整備状況

当社グループは、グループ会社管理規程に基づき、グループ会社の管理を行う部門を設置し、グループ会社の事業の進捗状況及び取締役等の職務執行状況のモニタリングを実施しております。また、当社代表取締役社長をはじめとした当社取締役及び当社本部長並びに各グループ会社の代表取締役が定例会議を開催し、各グループ会社より重要事項の報告を行っております。

社外取締役及び社外監査役との間で締結している責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、いずれも金1万円以上であらかじめ定めた額と法令が定める最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

内部監査及び監査役監査

内部監査の組織体制として、当社では内部監査室を設置し、専任担当者を3名配置しております。同室では、当社及び当社グループにおいて内部監査を実施し、その結果の報告、内部監査指摘事項の改善状況の調査・報告を当社の代表取締役社長に行っております。これにより、不正取引の発生防止や業務の効率性改善等に努め、会社の業績向上、遵法経営を通じて会社の発展に寄与することを目的とした内部監査を実施しております。

監査役は、定期的な監査役会の開催のほか、取締役会への出席、その他社内の重要な会議への出席、会社財産の調査及び業務の調査等を通じて取締役の業務を十分に監査できる体制となっており、不正行為又は法令もしくは定款に違反する事実の発生防止にも取り組んでおります。また、内部監査室と定期的に意見・情報交換を行い、内部統制が有効に機能するよう図っております。

内部監査室、監査役及び会計監査人の相互連携について、内部監査室は、内部監査の状況を監査役会に報告し、適時に会合を行い意見及び情報の交換を行っております。監査役は、四半期毎に会計監査人より監査結果報告を聴取し、必要に応じて会計監査人に報告を求めるなど情報の共有を行っております。さらに監査役は、会計監査人に対して、監査計画、監査実施状況、監査結果等について報告を求めるなど、監査機能の有効性・効率性を高めるための取り組みを行っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の取締役8名のうち3名は社外取締役であり、監査役3名は全て社外監査役であります。社外取締役には、独立した立場からの監督機能を、社外監査役には、取締役の影響を受けず業務執行を客観的に監査することを期待して選任し、経営監視機能の実効性を確保しております。

社外監査役は、上記及びに記載のとおり、会計監査人及び内部監査室と連携を密にとっております。

イ 各社外取締役及び各社外監査役、並びに当該社外取締役及び社外監査役が現在までに在籍していた会社と当社との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係

社外取締役青柳立野氏及び社外監査役若松弘之氏は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツに在籍しておりましたが、当該在籍期間内における当社での監査実績はありません。有限責任監査法人トーマツと当社との取引関係については(2)監査報酬の内容等をご参照ください。

その他各社外取締役及び各社外監査役、並びに当該社外取締役及び社外監査役が現在までに在籍していた会社と当社との間には人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社のコーポレート・ガバナンスにおいて果たす機能及び役割

社外取締役青柳立野氏は、公認会計士としての経験・見識が豊富であり、当社の論理に捉われない客観的視点で独立性をもって経営の監視を遂行し、取締役会の透明性の向上及び監督機能の強化に十分な役割を果たしております。また、その知識経験に基づき、経営に関する重要事項の審議に際し適宜助言を行うなど、意思決定に参画しております。

社外取締役嶋聡氏は、衆議院議員としての経験を有しているほか、これまでの経歴から企業活動に関する豊富な見識・実績を有しております。その知識経験に基づき、経営事項の決定及び業務執行の監督等を行っていただくため、社外取締役に選任しております。

社外取締役志村直子氏は、平成30年6月26日開催の定時株主総会において選任されました。同氏は、弁護士としての職務を通じて培われた法律・コンプライアンス等に関する専門的な知識及び豊富な経験を有しており、当社取締役会の一層の監督機能強化が期待されることから、社外取締役に選任しております。

社外監査役加藤孝子氏は、長年にわたり経理業務の経験を重ね、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、その知識経験に基づき、議案審議等に適宜助言又は提言を行っております。

社外監査役佐藤孝幸氏は、弁護士の資格を有しており、その専門的見地から議案審議等に適宜助言又は提言を行っております。

社外監査役若松弘之氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、その専門的見地から議案審議等に適宜助言又は提言を行っております。

- 八 社外取締役及び社外監査役の独立性に関する基準又は方針
社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針は定めておりません。

役員の報酬等

- イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く。)	721	344	376	5
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-
社外役員	37	37	-	5

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

- ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

氏名	連結報酬等の 総額 (百万円)	役員区分	会社区分	連結報酬等の種類別の総額(百万円)			
				基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金
森田 仁基	306	取締役	提出会社	137	168	-	-
荻野 泰弘	114	取締役	提出会社	58	56	-	-
木村 弘毅	227	取締役	提出会社	115	112	-	-

(注) 連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

- 八 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの
金額に重要性がないため、記載しておりません。

- 二 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関しては、取締役報酬規程にて定めており、その内容は同業他社の水準、業績及び従業員給与との均衡等を考慮して、株主総会が決定する報酬総額の限度内において取締役会決議に基づきこれを決定するとしております。

株式の保有状況

- イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

- ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

該当事項はありません。

- ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	118	118	-	-	-

会計監査の状況

当社は、会計監査人として有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しており、同監査法人が会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を実施しております。当事業年度において業務を執行した公認会計士は次のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 末村あおぎ

指定有限責任社員 業務執行社員 宮澤義典

また、当社の監査業務にかかる補助者は公認会計士、その他計16名であります。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨定款に定めております。

解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、機動的な配当政策及び資本政策を図ることを目的とするものであります。

中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって、取締役及び監査役（取締役及び監査役であったものを含む。）の同法第423条第1項における賠償責任を法令の限度において、免除できる旨定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分発揮できることを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	33	-	34	-
計	33	-	34	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査日数、当社グループの規模・業務の特性等の要素を勘案した上で決定しております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、四半期毎に行われる各種セミナーに参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	134,278	156,190
売掛金	16,214	11,732
商品	291	441
原材料	-	211
繰延税金資産	864	808
その他	2,487	2,887
貸倒引当金	6	16
流動資産合計	154,130	172,256
固定資産		
有形固定資産		
建物	703	1,005
減価償却累計額	213	397
建物（純額）	489	608
工具、器具及び備品	2,303	2,615
減価償却累計額	1,540	1,349
工具、器具及び備品（純額）	763	1,266
建設仮勘定	33	13
有形固定資産合計	1,286	1,888
無形固定資産		
のれん	8,683	-
その他	271	391
無形固定資産合計	8,954	391
投資その他の資産		
投資有価証券	2,559	3,351
繰延税金資産	8,994	9,677
その他	1,051	4,559
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	12,603	17,586
固定資産合計	22,844	19,866
資産合計	176,974	192,123

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	5,713	7,068
未払法人税等	11,347	9,909
未払消費税等	865	95
賞与引当金	1,560	950
その他	6,814	3,616
流動負債合計	26,300	21,641
固定負債		
繰延税金負債	50	-
その他	93	47
固定負債合計	143	47
負債合計	26,444	21,688
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,698	9,698
資本剰余金	10,941	9,668
利益剰余金	139,914	151,669
自己株式	10,525	1,450
株主資本合計	150,029	169,587
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	242	212
その他の包括利益累計額合計	242	212
新株予約権	253	630
非支配株主持分	4	4
純資産合計	150,529	170,434
負債純資産合計	176,974	192,123

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	207,161	189,094
売上原価	24,147	23,050
売上総利益	183,013	166,043
販売費及び一般管理費	1, 2 94,004	1, 2 93,683
営業利益	89,008	72,359
営業外収益		
受取利息	2	3
還付消費税等	15	-
投資事業組合運用益	-	493
為替差益	-	12
その他	19	50
営業外収益合計	37	559
営業外費用		
支払利息	0	0
投資事業組合運用損	235	-
為替差損	3	-
支払手数料	332	196
その他	1	5
営業外費用合計	573	202
経常利益	88,472	72,717
特別利益		
固定資産売却益	-	3 2
投資有価証券売却益	-	4 346
関係会社株式売却益	20	-
新株予約権戻入益	0	-
特別利益合計	21	348
特別損失		
固定資産除売却損	5 8	5 24
減損損失	6 3	6 131
投資有価証券評価損	861	391
のれん償却額	-	7 7,597
関係会社株式売却損	8 192	-
特別損失合計	1,065	8,145
税金等調整前当期純利益	87,428	64,920
法人税、住民税及び事業税	28,674	23,810
法人税等調整額	1,112	677
法人税等合計	27,562	23,132
当期純利益	59,866	41,788
非支配株主に帰属する当期純損失()	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	59,867	41,788

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	59,866	41,788
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	18	29
その他の包括利益合計	1 18	1 29
包括利益	59,848	41,758
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	59,849	41,759
非支配株主に係る包括利益	0	0

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,698	20,427	91,112	17	121,221
当期変動額					
剰余金の配当			11,066		11,066
親会社株主に帰属する 当期純利益			59,867		59,867
自己株式の取得				20,000	20,000
自己株式の処分		2		4	6
自己株式の消却		9,488		9,488	-
利益剰余金から資本剰 余金への振替					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	9,486	48,801	10,507	28,807
当期末残高	9,698	10,941	139,914	10,525	150,029

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	260	260	2	5	121,490
当期変動額					
剰余金の配当					11,066
親会社株主に帰属する 当期純利益					59,867
自己株式の取得					20,000
自己株式の処分					6
自己株式の消却					-
利益剰余金から資本剰 余金への振替					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	18	18	250	0	231
当期変動額合計	18	18	250	0	29,039
当期末残高	242	242	253	4	150,529

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,698	10,941	139,914	10,525	150,029
当期変動額					
剰余金の配当			12,230		12,230
親会社株主に帰属する 当期純利益			41,788		41,788
自己株式の取得				9,999	9,999
自己株式の処分					-
自己株式の消却		19,075		19,075	-
利益剰余金から資本剰 余金への振替		17,802	17,802		-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	1,272	11,755	9,075	19,557
当期末残高	9,698	9,668	151,669	1,450	169,587

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	242	242	253	4	150,529
当期変動額					
剰余金の配当					12,230
親会社株主に帰属する 当期純利益					41,788
自己株式の取得					9,999
自己株式の処分					-
自己株式の消却					-
利益剰余金から資本剰 余金への振替					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	29	29	376	0	346
当期変動額合計	29	29	376	0	19,904
当期末残高	212	212	630	4	170,434

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	87,428	64,920
減価償却費	375	783
減損損失	3	131
のれん償却額	1,679	8,683
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	9
賞与引当金の増減額(は減少)	649	610
受取利息	2	3
還付消費税等	15	-
支払利息	0	0
為替差損益(は益)	0	11
支払手数料	332	196
投資事業組合運用損益(は益)	235	493
関係会社株式売却損益(は益)	171	-
投資有価証券評価損益(は益)	861	391
投資有価証券売却損益(は益)	-	346
固定資産除売却損益(は益)	8	22
売上債権の増減額(は増加)	3,280	4,482
たな卸資産の増減額(は増加)	221	362
未払金の増減額(は減少)	99	958
未払消費税等の増減額(は減少)	4,847	769
その他	1,448	3,117
小計	84,923	74,888
利息の受取額	0	1
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	43,621	24,915
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,303	49,975
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	606	1,329
無形固定資産の取得による支出	46	331
投資有価証券の取得による支出	1,093	1,644
投資有価証券の売却による収入	-	445
投資有価証券の分配による収入	239	750
投資有価証券の払戻による収入	-	75
差入保証金の差入による支出	173	3,573
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	94	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	2 200	-
その他	22	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,950	5,601
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	10
自己株式の処分による収入	4	-
自己株式の取得による支出	20,332	10,195
配当金の支払額	11,057	12,239
その他	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,386	22,447
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	14
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	7,961	21,912
現金及び現金同等物の期首残高	126,316	134,278
現金及び現金同等物の期末残高	1 134,278	1 156,190

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 17社
主要な連結子会社の名称 株式会社ミクシィ・リクルートメント
株式会社Diverse
株式会社フンザ

株式会社ラーテル他5社については新たに設立したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めておりません。

また、前連結会計年度まで連結子会社であった株式会社コンフィアンザは当連結会計年度において清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 非連結子会社の名称等

株式会社イー・マーキュリー

(連結の範囲から除いた理由)

株式会社イー・マーキュリーは小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社数 1社

非連結子会社の名称 株式会社イー・マーキュリー

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちScrum Ventures Fund, L.P.及び株式会社Compath Meの決算日は12月末日、株式会社フンザの決算日は2月末日であり、それぞれの決算日の財務諸表を使用しております。なお、連結決算日との間に生じた連結上重要な取引に関しては必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業組合等への出資持分については、直近の決算日の財務諸表を基礎とし、持分相当額を純額で取込む方法を採用しております。

たな卸資産

商品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主に定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2~27年

工具、器具及び備品 2~20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債並びに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

8年の均等償却により償却しております。ただし、金額的に重要性の乏しい場合には、発生時に一括償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)

・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「差入保証金の差入による支出」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 151百万円は、「差入保証金の差入による支出」 173百万円、「その他」22百万円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

当連結会計年度において、本社移転に関する不動産賃貸借契約を締結いたしました。これにより、現オフィスの不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務として計上していた資産除去債務の使用見込期間の変更及び現オフィスの固定資産の耐用年数の見直しを行いました。当該見積りの変更により、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金調整前当期純利益がそれぞれ202百万円減少しております。

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
広告宣伝費	20,864百万円	23,593百万円
決済手数料	59,273百万円	53,634百万円

2. 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	-百万円	635百万円

3. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	-百万円	2百万円

4. 投資有価証券売却益

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

アイ・マーキュリーキャピタル株式会社が保有する投資有価証券の売却に伴う利益であります。

5. 固定資産除売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	0百万円	-百万円
工具、器具及び備品	6百万円	24百万円
その他	1百万円	0百万円
計	8百万円	24百万円

6. 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

記載すべき重要な事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

事業	用途	場所	種類	金額 (百万円)
メディアプラットフォーム事業	事業用資産	-	工具器具備品	0
			その他無形固定資産	131

主に事業の区分を基準に資産のグルーピングを行っております。また、遊休資産及び処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングを行っております。

メディアプラットフォーム事業において、株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い、想定していた収益が見込めなくなったことから、減損損失を認識しております。

なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、これらの資産はいずれも将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

7. のれん償却額

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」（日本公認会計士協会 最終改正平成26年11月28日 会計制度委員会報告第7号）第32項の規定に基づき、のれんを償却したものであります。

なお、これはメディアプラットフォーム事業において、株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い、のれんを全額償却したものであります。

8. 関係会社株式売却損

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

ミュージコー株式会社の株式売却に伴う損失であります。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

（連結包括利益計算書関係）

1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
為替換算調整勘定		
当期発生額	18	29
組替調整額	-	-
税効果調整前	18	29
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	18	29
その他の包括利益合計	18	29

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	84,295,500	-	2,416,050	81,879,450

(変動事由の概要)

自己株式の消却に伴う減少 2,416,050株

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	30,500	4,727,750	2,423,050	2,335,200

(変動事由の概要)

自己株式の取得に伴う増加 4,727,700株

単元未満株式の買取りに伴う増加 50株

自己株式の消却に伴う減少 2,416,050株

新株予約権の行使による処分に伴う減少 7,000株

3. 新株予約権に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)			当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					253
合計						253

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年5月10日取締役会	普通株式	6,488	77	平成28年3月31日	平成28年6月8日
平成28年11月9日取締役会	普通株式	4,577	56	平成28年9月30日	平成28年12月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月10日取締役会	普通株式	利益剰余金	7,238	91	平成29年3月31日	平成29年6月7日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	81,879,450	-	3,648,600	78,230,850

(変動事由の概要)

自己株式の消却に伴う減少 3,648,600株

2. 自己株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,335,200	1,542,700	3,648,600	229,300

(変動事由の概要)

自己株式の取得に伴う増加 1,542,700株
自己株式の消却に伴う減少 3,648,600株

3. 新株予約権に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)			当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					630
合計						630

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月10日取締役会	普通株式	7,238	91	平成29年3月31日	平成29年6月7日
平成29年11月8日取締役会	普通株式	4,992	64	平成29年9月30日	平成29年12月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月10日取締役会	普通株式	利益剰余金	4,446	57	平成30年3月31日	平成30年6月6日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	134,278百万円	156,190百万円
現金及び現金同等物	134,278百万円	156,190百万円

2. 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の売却によりミュージコー株式会社が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳、当該会社株式の売却価額及び売却のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	330百万円
固定資産	58百万円
流動負債	196百万円
固定負債	0百万円
株式売却損	192百万円
株式の売却価額	0百万円
現金及び現金同等物	190百万円
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	190百万円

株式の売却により株式会社ミクシィ・リサーチが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳、当該会社株式の売却価額及び売却のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	39百万円
流動負債	56百万円
株式売却益	20百万円
株式の売却価額	3百万円
現金及び現金同等物	13百万円
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	9百万円

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	268百万円	1,124百万円
1年超	536百万円	553百万円
合計	805百万円	1,678百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い短期の金融資産に限定し運用を行っております。連結子会社における資金調達に関しては内部資金及び銀行等金融機関からの借入により行う方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

金融資産の主なものには、現金及び預金、売掛金、投資有価証券があります。預金については、主に普通預金であり、預入先の信用リスクに晒されておりますが、預入先は信用度の高い銀行であります。売掛金については、顧客の信用リスクに晒されておりますが、債権管理規程に従い債権管理担当者が定期的取引先ごとの期日及び残高の管理を行うとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。投資有価証券については、主に事業上の関係を有する企業の株式及び投資事業組合に対する出資金であり、信用リスクに晒されておりますが、定期的に発行体及び投資事業組合の財務状況を把握しております。

金融負債の主なものには、未払金、未払法人税等、未払消費税等があります。未払金については、そのほとんどが1カ月以内の支払い期日であります。また、資金調達ができなくなる流動性リスクについては、当社の手元資金は潤沢であり流動性は確保できております。連結子会社においては、担当部署が適時に資金繰り計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)参照)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	134,278	134,278	-
(2) 売掛金 貸倒引当金	16,214 6		
	16,208	16,208	-
(3) 未払金	(5,713)	(5,713)	-
(4) 未払法人税等	(11,347)	(11,347)	-
(5) 未払消費税等	(865)	(865)	-

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	156,190	156,190	-
(2) 売掛金 貸倒引当金	11,732 16		
	11,716	11,716	-
(3) 未払金	(7,068)	(7,068)	-
(4) 未払法人税等	(9,909)	(9,909)	-
(5) 未払消費税等	(95)	(95)	-

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 未払金、(4) 未払法人税等、(5) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式等	865	906
投資事業組合出資金	1,694	2,444

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	134,278	-	-	-
売掛金	16,214	-	-	-
合計	150,493	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	156,190	-	-	-
売掛金	11,732	-	-	-
合計	167,923	-	-	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社2社は、確定拠出年金制度及び前払退職金制度を選択制で採用しております。

2. 確定拠出制度

当社及び国内連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度28百万円、当連結会計年度41百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. 費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費	253百万円	376百万円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
新株予約権戻入益	0百万円	- 百万円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社役員 3名	当社役員 4名
ストック・オプション数(注)	普通株式 133,800株	普通株式 95,500株
付与日	平成28年8月29日	平成29年8月29日
権利確定条件	確定条件は付されておりません。	同左
対象勤務期間	対象期間はありません。	同左
権利行使期間	平成28年8月30日から平成58年8月29日まで	平成29年8月30日から平成59年8月29日まで

(注) スtock・オプション数は株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	-	-
前連結会計年度末	-	-
付与	-	95,500
失効	-	-
権利確定	-	95,500
未確定残	-	-
権利確定後 (株)	-	-
前連結会計年度末	133,800	-
権利確定	-	95,500
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	133,800	95,500

単価情報

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1	1
行使時平均株価 (円)	-	-
公正な評価単価(付与日)(円)	1,897	3,944

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価方法 ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	73.64%	70.64%
予想残存期間 (注) 2	15.01年	15.01年
予想配当 (注) 3	147円/株	147円/株
無リスク利率 (注) 4	0.08%	0.27%

- (注) 1. 平成18年9月11日～平成29年8月29日の株価実績に基づき算定しております。
 2. 十分なデータの蓄積が無く、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。
 3. 平成29年3月期の配当実績によっております。
 4. 予想残存期間に対応する国債の利回りであります。

5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
建物	- 百万円	47百万円
繰越欠損金	52百万円	281百万円
ソフトウェア	8,940百万円	9,536百万円
投資有価証券	265百万円	395百万円
未払事業税	330百万円	471百万円
賞与引当金	478百万円	275百万円
資産調整勘定	97百万円	- 百万円
新株予約権	77百万円	193百万円
前受金	54百万円	112百万円
その他	167百万円	160百万円
繰延税金資産小計	10,464百万円	11,476百万円
評価性引当額	602百万円	990百万円
繰延税金資産合計	9,861百万円	10,486百万円
繰延税金負債との相殺	3百万円	- 百万円
繰延税金資産の純額	9,858百万円	10,486百万円
繰延税金負債		
無形固定資産	53百万円	- 百万円
繰延税金負債合計	53百万円	- 百万円
繰延税金資産との相殺	3百万円	- 百万円
繰延税金負債の純額	50百万円	- 百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	864百万円	808百万円
固定資産 - 繰延税金資産	8,994百万円	9,677百万円
固定資産 - 繰延税金負債	50百万円	- 百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	-	30.9%
のれん償却額	-	4.1%
評価性引当額	-	0.6%
税額控除	-	0.6%
その他	-	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	35.6%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループはインターネット上でウェブサイトの運営及びスマートフォンネイティブゲームの提供を中心に事業活動を展開しております。その中で、「エンターテインメント事業」及び「メディアプラットフォーム事業」の2つを報告セグメントとしております。

「エンターテインメント事業」は、スマートフォンネイティブゲームを中心としたゲームの提供を、「メディアプラットフォーム事業」は、インターネットを活用したサービスの運営、並びにそれらサービスの運営会社への投資を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載の方法と概ね同一であります。なお、報告セグメントの利益は、減価償却費及びのれん償却額を考慮しない営業利益ベースの数値（EBITDA）であります。

セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため記載しておりません。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	エンターテイン メント事業	メディアプラッ トフォーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	192,703	14,457	207,161	-	207,161
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	4	4	4	-
計	192,703	14,462	207,166	4	207,161
セグメント利益	94,267	1,806	96,073	7,064	89,008
その他の項目					
減価償却費	145	59	204	171	375
のれん償却額	-	1,679	1,679	-	1,679

(注) 1. セグメント利益の調整額 7,064百万円には、報告セグメントの減価償却費 204百万円及びのれん償却額 1,679百万円並びに各セグメントに配分していない全社費用 5,180百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	エンターテイン メント事業	メディアプラッ トフォーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	175,948	13,146	189,094	-	189,094
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	175,948	13,146	189,094	-	189,094
セグメント利益	78,438	1,564	80,003	7,643	72,359
その他の項目					
減価償却費	323	46	370	412	783
のれん償却額	-	1,085	1,085	-	1,085
のれん償却額(特別損失)	-	7,597	7,597	-	7,597

(注) 1. セグメント利益の調整額 7,643百万円には、報告セグメントの減価償却費 370百万円及びのれん償却額 1,085百万円並びに各セグメントに配分していない全社費用 6,187百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	エンターテインメント事業	メディアプラットフォーム事業	計		
減損損失	-	-	-	3	3

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	エンターテインメント事業	メディアプラットフォーム事業	計		
減損損失	-	131	131	-	131

(注)「メディアプラットフォーム事業」セグメントにおいて、当連結会計年度に株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い、減損損失を計上いたしました。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	エンターテインメント事業	メディアプラットフォーム事業	計		
当期償却額	-	1,679	1,679	-	1,679
当期末残高	-	8,683	8,683	-	8,683

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	エンターテインメント事業	メディアプラットフォーム事業	計		
当期償却額	-	8,683	8,683	-	8,683
当期末残高	-	-	-	-	-

(注) 1. 「メディアプラットフォーム事業」セグメントにおいて、当連結会計年度に株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い、のれんを全額償却いたしました。

2. 当期償却額には特別損失の「のれん償却額」7,597百万円が含まれております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万 円)
重要な 子会社 の役員	長谷川 武彦 松井 教泰			ミュージ コー(株) 代表取締 役			子会社株 式の譲渡 (注)	0		
				ミュージ コー(株) 取締役			子会社株 式の売却 損(注)	192		

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針

平成29年1月30日付で当社保有のミュージコー株式会社の全株式を長谷川氏及び松井氏に譲渡したため、当連結会計年度末時点において同社は連結子会社ではなくなっております。

また、子会社株式の譲渡価額は、純資産価額等を勘案し決定しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	1,889円16銭	2,176円88銭
1 株当たり当期純利益金額	730円85銭	533円48銭
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	730円14銭	532円19銭

(注) 1 株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
1 株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	59,867	41,788
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	59,867	41,788
普通株式の期中平均株式数(株)	81,914,717	78,331,422
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	79,979	190,018
(うち新株予約権)(株)	(79,979)	(190,018)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当 たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株 式の概要	-	-

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、平成30年5月10日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項を決議し、以下のとおり自己株式を取得いたしました。また、当該自己株式の取得は平成30年6月7日をもちまして終了いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上及び株主価値の最大化の追求のため。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得する株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 3,200,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.10%)
- (3) 株式の取得対価 金銭
- (4) 株式の取得価額の総額 10,000百万円(上限)
- (5) 取得期間 平成30年5月15日から平成30年9月末日
- (6) 買付方法 東京証券取引所における自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による買付け
東京証券取引所における市場買付け
(取引一任契約に基づく市場買付け)

3. 自己株式の取得の状況(平成30年5月15日~平成30年6月7日(約定ベース))

- (1) 取得した株式の総数 2,795,800株
- (2) 株式の取得価額の総額 9,999百万円
- (3) 買付方法 自己株式取得に係る取引一任契約に基づく市場買付け
但し、平成30年5月15日については、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による買付け(注)

(注) 当社の筆頭株主である当社取締役会長笠原健治(平成30年4月27日の所有株式数36,358,000株、当社発行済株式総数(自己株式を除く)に対する所有割合46.61%)は、当社の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付けに対して売付け注文を行い、当社は普通株式1,206,100株を4,504百万円で取得いたしました。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	1	2	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	10	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	4	7	-	平成31年4月27日～ 平成34年12月18日
合計	15	9	-	-

(注) 1. リース債務の平均利率については、利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載を省略しております。

2. 金額的重要性が乏しいことにより、1年以内に返済予定のリース債務については、連結貸借対照表の「流動負債」の「その他」に、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)については、連結貸借対照表の「固定負債」の「その他」に含めて表示しております。

3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
リース債務	2	2	1	0	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	48,229	93,256	135,436	189,094
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	20,122	37,097	40,803	64,920
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益金額 (百万円)	13,713	25,144	25,126	41,788
1株当たり四半期(当 期)純利益金額 (円)	172.95	319.66	320.33	533.48

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 利益金額又は1株当 たり四半期純損失金 額(円)	172.95	146.49	0.23	213.61

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	124,895	141,300
売掛金	15,868	11,446
商品	291	427
原材料	-	211
前渡金	192	905
前払費用	708	577
繰延税金資産	759	803
その他	1,649	1,782
貸倒引当金	5	16
流動資産合計	144,360	157,439
固定資産		
有形固定資産		
建物	703	965
減価償却累計額	213	397
建物（純額）	489	568
工具、器具及び備品	2,303	2,600
減価償却累計額	1,539	1,348
工具、器具及び備品（純額）	763	1,251
建設仮勘定	33	13
有形固定資産合計	1,286	1,833
無形固定資産		
ソフトウェア	61	306
その他	36	85
無形固定資産合計	97	391
投資その他の資産		
投資有価証券	1,472	2,334
関係会社株式	13,814	6,130
関係会社出資金	18	18
関係会社長期貸付金	879	7,889
繰延税金資産	8,965	9,633
敷金及び保証金	1,033	4,529
その他	22	45
貸倒引当金	444	562
投資その他の資産合計	25,763	30,018
固定資産合計	27,146	32,243
資産合計	171,507	189,683

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	5,379	6,613
未払費用	17	25
未払法人税等	10,431	9,306
未払消費税等	664	-
前受金	1,726	1,646
預り金	746	694
リース債務	1	2
賞与引当金	1,511	894
流動負債合計	20,479	19,181
固定負債		
リース債務	4	7
その他	79	39
固定負債合計	83	46
負債合計	20,562	19,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,698	9,698
資本剰余金		
資本準備金	9,668	9,668
その他資本剰余金	1,272	-
資本剰余金合計	10,941	9,668
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	140,575	151,906
利益剰余金合計	140,575	151,906
自己株式	10,525	1,450
株主資本合計	150,690	169,823
新株予約権	253	630
純資産合計	150,944	170,454
負債純資産合計	171,507	189,683

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	195,756	178,813
売上原価	21,876	21,405
売上総利益	173,879	157,408
販売費及び一般管理費	¹ 85,516	¹ 85,990
営業利益	88,363	71,418
営業外収益		
受取利息	23	45
受取配当金	² 409	-
投資事業組合運用益	-	541
為替差益	-	16
その他	34	50
営業外収益合計	467	654
営業外費用		
投資事業組合運用損	121	-
支払手数料	332	196
その他	3	3
営業外費用合計	457	199
経常利益	88,373	71,873
特別利益		
固定資産売却益	-	³ 2
関係会社株式売却益	3	-
貸倒引当金戻入額	-	⁴ 46
新株予約権戻入益	0	-
関係会社清算益	-	⁵ 11
特別利益合計	4	60
特別損失		
固定資産除売却損	⁶ 8	⁶ 24
減損損失	3	-
投資有価証券評価損	711	-
関係会社株式評価損	⁷ 100	⁷ 8,374
貸倒引当金繰入額	⁸ 361	⁸ 164
関係会社事業整理損	⁹ 684	-
特別損失合計	1,868	8,563
税引前当期純利益	86,510	63,370
法人税、住民税及び事業税	27,672	22,718
法人税等調整額	1,259	711
法人税等合計	26,412	22,006
当期純利益	60,097	41,363

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
労務費	1	1,989	9.2	2,124	10.2
経費		19,699	90.8	18,637	89.8
当期総製造費用		21,688	100.0	20,761	100.0
期首商品たな卸高		46		291	
当期商品仕入高		432		780	
合計		22,167		21,833	
期末商品たな卸高		291		427	
売上原価		21,876		21,405	

1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
外注費	18,505百万円	16,961百万円
賃借料	778百万円	1,149百万円
コンテンツ費用	126百万円	104百万円
減価償却費	92百万円	164百万円

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	9,698	9,668	10,759	20,427	91,544	91,544
当期変動額						
剰余金の配当					11,066	11,066
当期純利益					60,097	60,097
自己株式の取得						
自己株式の処分			2	2		
自己株式の消却			9,488	9,488		
利益剰余金から資本剰余金への振替						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	9,486	9,486	49,031	49,031
当期末残高	9,698	9,668	1,272	10,941	140,575	140,575

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	17	121,653	2	121,656
当期変動額				
剰余金の配当		11,066		11,066
当期純利益		60,097		60,097
自己株式の取得	20,000	20,000		20,000
自己株式の処分	4	6		6
自己株式の消却	9,488	-		-
利益剰余金から資本剰余金への振替		-		-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			250	250
当期変動額合計	10,507	29,037	250	29,288
当期末残高	10,525	150,690	253	150,944

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計
当期首残高	9,698	9,668	1,272	10,941	140,575	140,575
当期変動額						
剰余金の配当					12,230	12,230
当期純利益					41,363	41,363
自己株式の取得						
自己株式の処分						
自己株式の消却			19,075	19,075		
利益剰余金から資本剰 余金への振替			17,802	17,802	17,802	17,802
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	1,272	1,272	11,330	11,330
当期末残高	9,698	9,668	-	9,668	151,906	151,906

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	10,525	150,690	253	150,944
当期変動額				
剰余金の配当		12,230		12,230
当期純利益		41,363		41,363
自己株式の取得	9,999	9,999		9,999
自己株式の処分		-		-
自己株式の消却	19,075	-		-
利益剰余金から資本剰 余金への振替		-		-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			376	376
当期変動額合計	9,075	19,133	376	19,509
当期末残高	1,450	169,823	630	170,454

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業組合等への出資持分については、直近の決算日の財務諸表を基礎とし、持分相当額を純額で取込む方法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2～27年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めておりました「敷金及び保証金」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた1,056百万円は、「敷金及び保証金」1,033百万円、「その他」22百万円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

当事業年度において、本社移転に関する不動産賃貸借契約を締結いたしました。これにより、現オフィスの不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務として計上していた資産除去債務の使用見込期間の変更及び現オフィスの固定資産の耐用年数の見直しを行いました。当該見積りの変更により、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ202百万円減少しております。

(損益計算書関係)

1. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度88.4%、当事業年度84.8%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度11.6%、当事業年度15.2%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
広告宣伝費	17,773百万円	20,937百万円
決済手数料	57,750百万円	51,866百万円

2. 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
受取配当金	409百万円	-百万円

3. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	-百万円	2百万円

4. 貸倒引当金戻入額

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

債務超過額が減少した株式会社ノハナに対する投融資に関するものであります

5. 関係会社清算益

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

株式会社コンフィアンザの清算結了に伴い発生したものであります。

6. 固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	0百万円	-百万円
工具、器具及び備品	6百万円	24百万円
ソフトウェア	1百万円	0百万円
計	8百万円	24百万円

7. 関係会社株式評価損

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

株式会社ノハナが財政状態が悪化したことに伴い発生したものであります。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

株式会社フンザが運営するチケットキャンプの業務を停止し、サービス提供を終了する意思決定を行ったことに伴い発生したものであります。

8. 貸倒引当金繰入額

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

財政状態が悪化したアイ・マーキュリーキャピタル株式会社と株式会社ノハナに対する投融資に関するものであります。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

財政状態が悪化したアイ・マーキュリーキャピタル株式会社に対する投融資に関するものであります。

9. 関係会社事業整理損

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

ミュージコー株式会社に対する債権放棄に伴う損失及び株式会社ミクシィマーケティングの清算に伴う損失であります。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

（有価証券関係）

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	13,814百万円	6,130百万円
計	13,814百万円	6,130百万円

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
建物	- 百万円	47百万円
ソフトウェア	8,903百万円	9,492百万円
一括償却資産	45百万円	35百万円
投資有価証券	265百万円	267百万円
関係会社株式	102百万円	2,631百万円
貸倒引当金	138百万円	177百万円
未払事業税	256百万円	471百万円
賞与引当金	466百万円	273百万円
資産除去債務	26百万円	50百万円
新株予約権	77百万円	193百万円
前受金	54百万円	112百万円
その他	67百万円	69百万円
繰延税金資産小計	10,404百万円	13,822百万円
評価性引当額	679百万円	3,386百万円
繰延税金資産合計	9,725百万円	10,436百万円

（注）前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産合計の金額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	759百万円	803百万円
固定資産 - 繰延税金資産	8,965百万円	9,633百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	-	30.9%
(調整)		
評価性引当額	-	4.3%
税額控除	-	0.6%
その他	-	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	34.7%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、平成30年5月10日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項を決議し、以下のとおり自己株式を取得いたしました。また、当該自己株式の取得は平成30年6月7日をもちまして終了いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上及び株主価値の最大化の追求のため。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得する株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 3,200,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.10%)
- (3) 株式の取得対価 金銭
- (4) 株式の取得価額の総額 10,000百万円(上限)
- (5) 取得期間 平成30年5月15日から平成30年9月末日
- (6) 買付方法 東京証券取引所における自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による買付け
東京証券取引所における市場買付け
(取引一任契約に基づく市場買付け)

3. 自己株式の取得の状況(平成30年5月15日~平成30年6月7日(約定ベース))

- (1) 取得した株式の総数 2,795,800株
- (2) 株式の取得価額の総額 9,999百万円
- (3) 買付方法 自己株式取得に係る取引一任契約に基づく市場買付け
但し、平成30年5月15日については、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による買付け(注)

(注) 当社の筆頭株主である当社取締役会長笠原健治(平成30年4月27日の所有株式数36,358,000株、当社発行済株式総数(自己株式を除く)に対する所有割合46.61%)は、当社の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付けに対して売付け注文を行い、当社は普通株式1,206,100株を4,504百万円で取得いたしました。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	703	261	-	965	397	183	568
工具、器具及び備品	2,303	1,033	736	2,600	1,348	517	1,251
建設仮勘定	33	27	46	13	-	-	13
有形固定資産計	3,039	1,322	783	3,579	1,745	701	1,833
無形固定資産							
ソフトウェア	114	306	0	420	114	61	306
その他	36	146	97	85	0	0	85
無形固定資産計	150	453	98	506	114	61	391

- (注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。
 工具、器具及び備品 コンピューター及びサーバー等の購入(458百万円)
 工具、器具及び備品 什器備品等の購入(254百万円)
2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。
 工具、器具及び備品 サーバー等の除却(508百万円)

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	450	579	2	448	579
賞与引当金	1,511	894	1,511	-	894

- (注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)のうち、448百万円は洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

特記事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日及び3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.mixi.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第18期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第19期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月10日関東財務局長に提出。

第19期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月10日関東財務局長に提出。

第19期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日) 平成30年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年6月28日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2(新株予約権の発行に関する事項)の規定に基づく臨時報告書

平成29年8月8日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)および19号(財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書

平成29年12月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

平成30年2月28日関東財務局長に提出。

(5) 臨時報告書の訂正報告書

訂正報告書(上記平成29年8月8日提出の臨時報告書に係る訂正報告書)

平成29年8月29日関東財務局長に提出。

訂正報告書(上記平成29年12月27日提出の臨時報告書に係る訂正報告書)

平成30年2月14日関東財務局長に提出。

(6) 自己株券買付状況報告書

平成29年7月14日関東財務局長に提出

平成29年8月15日関東財務局長に提出

平成29年9月14日関東財務局長に提出

平成29年10月13日関東財務局長に提出

平成30年6月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月26日

株式会社ミクシィ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 末村 あおぎ 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮澤 義典 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミクシィの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ミクシィ及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社は平成30年5月10日開催の取締役会において自己株式取得に係る事項を決議し、平成30年5月15日から平成30年6月7日の期間において自己株式を取得した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ミクシィの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ミクシィが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月26日

株式会社ミクシィ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 末 村 あ お ぎ 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 澤 義 典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミクシィの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第19期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ミクシィの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社は平成30年5月10日開催の取締役会において自己株式取得に係る事項を決議し、平成30年5月15日から平成30年6月7日の期間において自己株式を取得した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。